

ミズニラ *Isoetes japonica* A.Br.

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 1、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有度階級 2。全国的に減少傾向の著しい水草で、水のきれいなため池など減少傾向の著しい場所に生育している。

【形態】

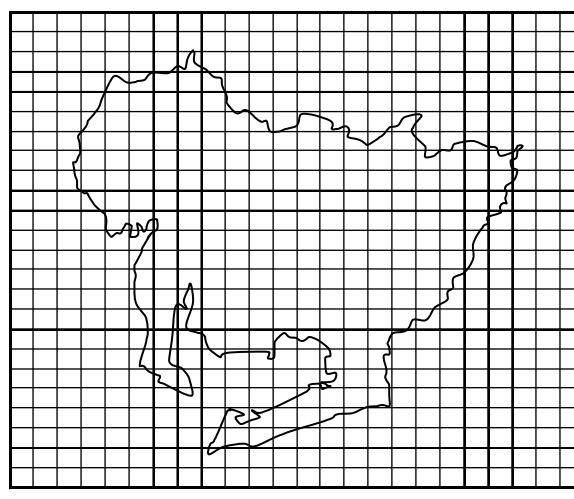
夏緑性の水草。塊茎は長さ 5cm に達することがあり、中心から放射状に出る 3 条の溝で浅く 3 分する。葉は束生し、円柱状、長さ 15~30cm、先端は次第に細くなる。葉の基部は広がって、長さ 1.5cm、幅 1cm 程度の卵形になり、その部分の辺縁は薄い膜質、葉の付け根に胞子のうをつける。胞子には雌性の大胞子と雄性の小胞子がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

津具（芹沢 74852）、東栄（小林 38936）、設楽西部（小林 57640）、鳳来北東部（小林 57859）、鳳来北西部（小林 59214）、作手（小林 53915）、新城（加藤等次 4160）、豊橋北部（小林 58563）、田原赤羽根（小林 46390）、渥美（小林 43855）、稲武（小林 82829）、瀬戸尾張旭（塚本威彦 2993）、半田武豊（花井隆晃 2493）、犬山（塚本威彦 1292）、春日井（村松正雄 18951）、名古屋北部（芹沢 77437）。豊根（坂宇場、村松正雄 11557, 1992-8-16）にもあったが、生育していたため池が放棄されて水がなくなり、絶滅した。蒲郡（大塚町、小林 26235, 1983-10-6）で採集された標本もある。東三河では比較的多いが、西三河は稲武以外では確認されておらず、尾張でも 5 区画で確認されているだけである。かつては名古屋周辺の丘陵地に普通に見られたという。

要配慮地区図



【国内の分布】

本州、四国（北部）。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。

【生育地の環境 / 生態的特性】

ため池や流れのゆるやかな水路の水中に沈水状態で生育している場合もあるし、水田などの水湿地に挺水または半陸生状態で生育している場合もある。

| | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林 | | | | |
| 草・岩 | | | | |
| 湿地 | ○ | ○ | | |
| 水域 | ○ | ○ | | |

【現在の生育状況 / 減少の要因】

丘陵地の開発、除草剤の使用等により激減し、一時はほとんど見られなくなったが、東三河では最近やや復活傾向にある。一部の場所では、休耕田に群生している。

【保全上の留意点】

谷戸田の保全が必要である。東三河に比較的多いため県全体では準絶滅危惧と評価されたが、尾張では保全の必要性が高く、西三河中南部でも発見されれば同様である。

【特記事項】

目立ちにくい植物で花のないホシクサ類に似ているので、調査の際には特に注意を要する。東北地方南部、関東地方北部、近畿地方西部、中国地方東部、四国北部には、近縁種のミズニラモドキ *I. pseudojaponica* M.Takamiya et al. が分布している。

【関連文献】

保シダ p.21、平シダ p.56、SOS 旧版 p.36+図版 23、環境庁 p.419、SOS 新版 p.115,117。
倉田 悟・中池敏之(編), 1985. 日本のシダ植物図鑑 4: 84-88. 東京大学出版会, 東京。
高宮正之, 1999. ミズニラ属の自然誌と分類. 植物分類地理, 50: 101-138.

イヌスギナ *Equisetum palustre* L.

【選定理由】

個体数階級 1、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有度階級 2。温帯性の植物で、愛知県は分布域の南限にあたる。平野部の開発圧の高い場所に生育している。

【形態】

夏緑性の多年生草本。地下茎は長く匍匐し、しばしば群生する。直立茎は高さ 20~60cm、基部で直径 2~4mm、上半部で規則正しく枝を輪生し、主軸の先端部は長く伸びて枝をつけない。葉鞘は長さ 1~1.2cm (歯片を含む)、下部の枝の最下の節間は主軸の葉鞘より短い。枝は斜上し、長さ 5~20cm になる。胞子のう穂は主軸に頂生し、長楕円形、長さ 1~2.5cm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

安城 (堀田喜久 7265)、一宮木曾川 (芹沢 48545)、尾西 (渡辺幸子 2259)、祖父江 (渡辺幸子 5343)。木曾川沿いの低湿地に点在する。豊田南西部 (河合町, アジア航測環境部 s.n., 2000-5-17) にも生育していたが絶滅した。

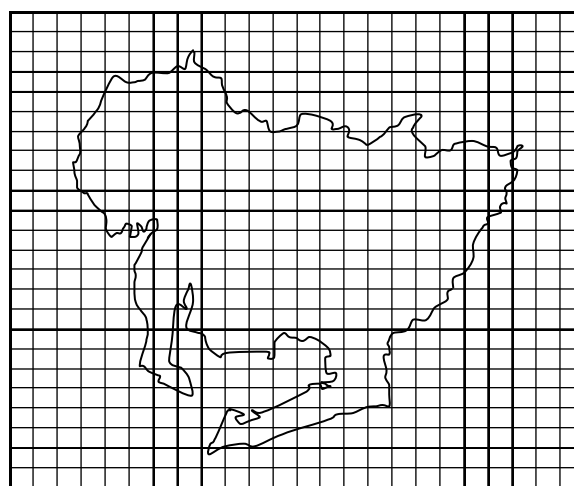
【国内の分布】

北海道および本州 (長野県や関東地方以北、愛知県、岐阜県、滋賀県、島根県)。東北日本では普通の種類である。

【世界の分布】

北半球の温帯に広く分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

日当たりのよい水湿地に群生する。休耕田に生育することもある。愛知県では水田のあぜや小水路のわきなどに生育している。

| | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林 | | | | |
| 草・岩 | | | | |
| 湿地 | | | ○ | |
| 水域 | | | | |

【現在の生育状況 / 減少の要因】

生育地点は限られているが、ある場所では群生している。平野部の開発、とりわけ耕地整理による乾田化が減少の主要因と思われる。豊田南西部では清掃工場建設のアセスメントの際に発見されたが、「あった」という情報が伝えられた時には、すでに別事業である高速道路建設のため生育地が破壊されていた。

【保全上の留意点】

特別な環境の場所に生育しているものではないので、生育地の個別的な保全が必要である。草刈り等の軽微な攪乱は個体群が存続する上では問題とならないが、耕地整理や宅地化などの大規模な攪乱があれば存続できない。本種が生育できるような湿田は、過去の稲作様式を示す文化遺産としても重要である。

【特記事項】

スギナの胞子茎の先端に胞子のう穂をつける型 (ミモチスギナ) と混同しないよう、注意が必要である。過去の文献では上記 3 区画以外の場所でも記録されているが、標本での再確認が必要である。

【関連文献】

保シダ p.23、平シダ p.59。

倉田 悟・中池敏之 (編), 1985. 日本のシダ植物図鑑 4: 50-54. 東京大学出版会, 東京

ナガホノナツノハナワラビ *Botrychium strictum* Underw.

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 2、人為圧階級 2、固有度階級 1。温帯性の植物で、愛知県では生育地も個体数も極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

夏緑性の多年生草本。根茎は短く直立し、年に 1 枚、高さ 30~70cm の葉を出す。共通柄は長さ 15~25cm で、太いものは直径 1cm くらいになる。栄養葉は無柄、葉身は広三角形、長さ 15~30cm、2~3 回羽状に深裂し、ナツノハナワラビより切れ込みが浅く、深緑色である。孢子葉は穂状で細長く、2 回羽状、羽片は短く、密につく。孢子はナツノハナワラビより遅く、7 月頃熟す。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊根（芹沢 46711）、稲武（芹沢 79312）、豊田北西部（村松正雄 87-146）で確認されているが、稀である。

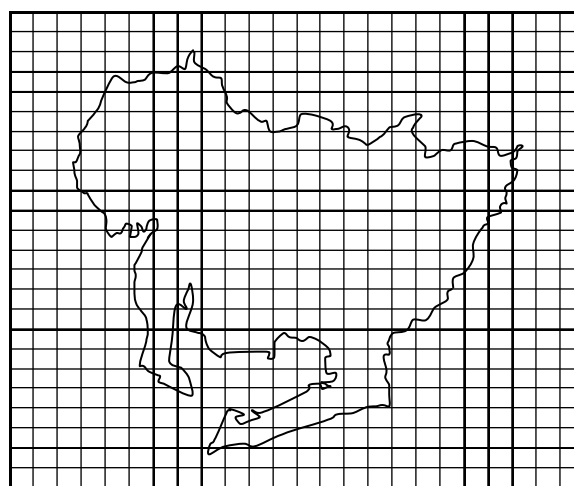
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州（南部を除く）。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

腐植質の多い林内。自然林に限らず、造林地、二次林内などにも生育している。通常あまり群生しない。

| | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林 | ○ | | | |
| 草・岩 | | | | |
| 湿地 | | | | |
| 水域 | | | | |

【現在の生育状況 / 減少の要因】

生育地点数が少ない上、どの場所も個体数が極めて少なく、散發的である。豊田北西部では 2 株確認されたにすぎない。しかし、他地域でも高密度に生育することの少ない植物なので、偶産ではない。森林の伐採による消滅が危惧される。

【保全上の留意点】

特別な環境の場所に生育しているものではないので、生育地の個別的な保全が必要である。

【特記事項】

近縁種のナツノハナワラビ *B. virginianum* (L.) Sw. も、愛知県では多いものではない。

【関連文献】

保シダ p.30、平シダ p.69。
倉田 悟・中池敏之(編), 1990. 日本のシダ植物図鑑 6: 230-237. 東京大学出版会, 東京。

ヤマソテツ *Plagiogyria matsumureana* Makino

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 2、人為圧階級 2、固有度階級 1。温帯性で日本海系の植物で、愛知県では生育地も個体数も少ない。

【形態】

夏緑性の多年生草本。根茎は太くて短く、斜上し、枯葉の基部が密につき、頂端に葉を束生する。栄養葉は放射状に開出し、葉柄は長さ 6~15cm、葉身は披針形で単羽状全裂し、長さ 25~70cm、幅は広いところで 7~15cm、羽片は独立せず中軸に沿着し、上部の羽片は次第に短くなり、頂羽片ははっきりしない。孢子葉は株の中央に直立し、栄養葉より高く伸びる。

【分布の概要】

【県内の分布】

設楽西部（小林 57642）、作手（権田昭一郎 s.n.）、幡豆（岡田 速 s.n.）、瀬戸尾張旭（芹沢 74726）で確認されている。散発的に出現するが、ほとんどは 1 株生育しているだけで、やや偶産的である。

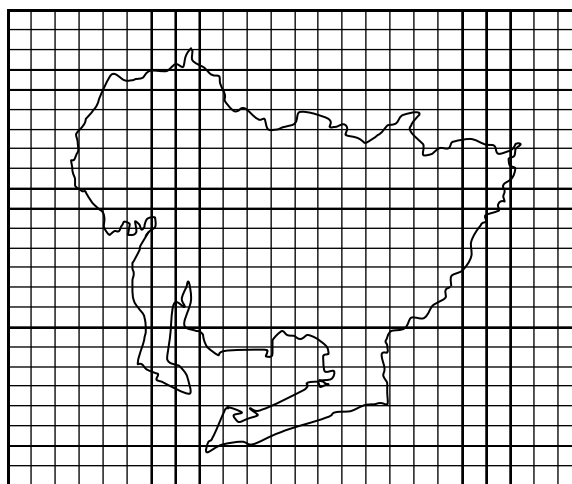
【国内の分布】

北海道から四国までの温帯域と、九州の屋久島の高地に生育する。日本海側の山地では普通に見られるが、太平洋側では少ない。

【世界の分布】

日本および千島列島南部。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

落葉広葉樹林、または造林地の林内に生育する。

| | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林 | ○ | | | |
| 草・岩 | | | | |
| 湿地 | | | | |
| 水域 | | | | |

【現在の生育状況 / 減少の要因】

森林の伐採による消滅が危惧される。瀬戸尾張旭のうちの 1 株は、2000 年 9 月の東海豪雨で流失した。

【保全上の留意点】

特別な環境の場所に生育しているものではないので、生育地の個別的な保全が必要である。

【関連文献】

保シダ p.69、平シダ p.76、SOS 旧版 p.37。
倉田 悟・中池敏之(編), 1985. 日本のシダ植物図鑑 4: 250-259. 東京大学出版会, 東京.

イシカグマ *Microlepia strigosa* (Thunb.) Presl

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 2、生育環境階級 2、人為圧階級 3、固有度階級 1。暖地性の植物で、愛知県は分布域の北限に近い。県内では生育地も個体数も少ない。

【形態】

常緑性の多年生草本。根茎は長く匍匐し、黄褐色で長さ 2mm 程度の硬毛が密生する。葉柄は長さ 30~60cm、葉身は卵状長楕円形~広披針形で 2 回羽状複生し、長さ 20~80cm、幅 20~35cm、先端は鋭尖頭になる。羽片は 20 対をこえることがあり、大きいものは長さ 20cm、幅 4cm に達し、先端は尾状にのびる。下部の羽片は多少短くなる。羽軸の表面は無毛で、裏面には短毛が密生する。胞子のう群は葉縁に接してつく。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊川宝飯(小林 79788)、蒲郡御津(堀田喜久 85-1714)、田原赤羽根(村松正雄 11916)、渥美(久納鉦一 156)、東海知多(鳥居ちる子 2583)、常滑(芹沢 76913)、名古屋南東部(堀田喜久 5499)。知多南部(南知多町山海, 芹沢 34278, 1982-4-18)で採集された標本もあるが、ここでは最近の状況が確認されていない。

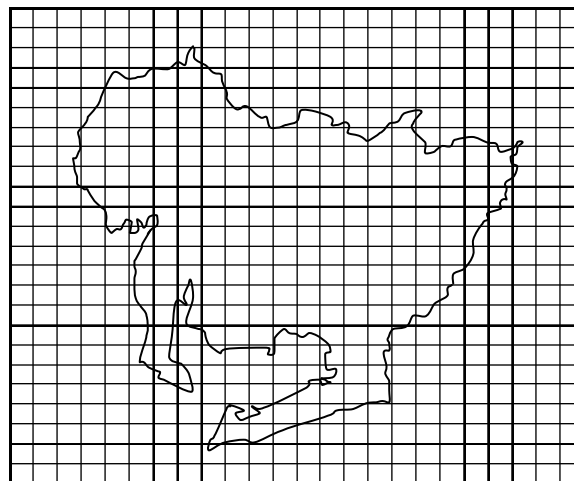
【国内の分布】

本州(千葉県南部、伊豆諸島、伊豆半島から西の海岸沿い)、四国、九州、琉球、小笠原。紀伊半島南部まで行けば、普通に見られる種類である。

【世界の分布】

ヒマラヤ、スリランカからポリネシアにかけての熱帯・亜熱帯に広く分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

海岸近くの林内や林縁に群生し、時には石垣の間などにも生育している。愛知県の生育地もどこにでもありそうな林縁で、特に自然度が高い場所というわけではない。

| | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林 | | ○ | | |
| 草・岩 | | ○ | | |
| 湿地 | | | | |
| 水域 | | | | |

【現在の生育状況 / 減少の要因】

よく生育している場所も衰退している場所もあるが、現状は自然現象の範囲内であろう。本種のような雑草的な性質を持ったシダ植物は、分布域の北限付近では分布の拡大と消失を繰り返しているものと思われる。

【保全上の留意点】

潜在的生育地である海岸近くの丘陵地の自然を、全体として保全することが重要である。

【特記事項】

石垣や石ころだらけの所に生えるから、イシカグマという。「カグマ」はシダ類の古名である。

【関連文献】

保シダ p.50、平シダ p.103。
倉田 悟・中池敏之(編), 1979. 日本のシダ植物図鑑 1: 170-178. 東京大学出版会, 東京。

ハマホラシノブ *Sphenomeris biflora* (Kaulf.) Tagawa

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 1。海岸性のシダ植物で、愛知県では生育地が少ない。

【形態】

常緑性の多年生草本。根茎は短く匍匐し、赤褐色の細かい鱗片を密生する。葉は叢生し、葉柄は長さ 5~30cm、葉身は卵形で 3~4 回羽状に切れ込み、長さ 7~45cm、幅 3~25cm、革質に近く、先端は鋭尖頭でやや尾状に伸びることもある。羽片は 6~10 対、終裂片は倒卵形~倒斜三角形、葉縁の脈端に胞子のう群をつけるが、包膜が厚いため葉縁に開くように見える。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊橋南部(福岡義洋 4241)、田原赤羽根(小林 73815)、渥美(芹沢 81163)。表浜沿いに点在するが、半島先端部の伊良湖岬周辺では見られない。

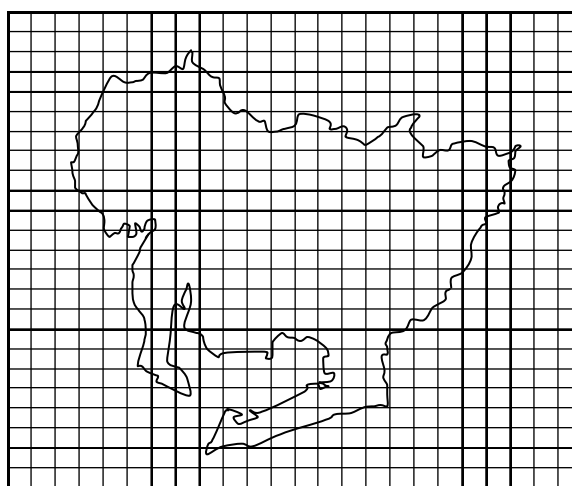
【国内の分布】

本州(関東地方南部~紀伊半島)、四国、九州、琉球、小笠原。

【世界の分布】

日本、台湾、中国大陸南部、フィリピン、マリアナ諸島。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

海岸の岩場や崖地に生育する。開けた場所のものは小型であるが、低木林内に生育しているものは葉身が 50cm 近くになる。

| | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林 | | | | |
| 草・岩 | | | | ○ |
| 湿地 | | | | |
| 水域 | | | | |

【現在の生育状況 / 減少の要因】

点在しているがどこも個体数は少ない。

【保全上の留意点】

表浜海岸は浸食防止や観光開発のためにさまざまな工事が行われているので、その際には注意が必要である。

【特記事項】

静岡県と紀伊半島に分布しながら愛知県では見られない植物の一つであったが、レッドデータブックあいち 2001 植物編発行後に県内での生育が確認された。

【関連文献】

保シダ p.50、平シダ p.103。
倉田 悟・中池敏之(編), 1979. 日本のシダ植物図鑑 1: 170-178. 東京大学出版会, 東京.

ナチシダ *Pteris wallichiana* Ag.

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 2、人為圧階級 2、固有度階級 1。暖地性の植物で、愛知県は分布域の北限に近い。県内では生育地も個体数も少ない。

【形態】

本来は常緑性の多年生草本であるが、分布北限域では冬に地上部が枯死する。根茎は短く、葉柄基部とともに鱗片がある。葉柄は長さ 1m に達し、黄褐色から暗紫色で光沢がある。葉身は長さ、幅ともに 1m を超え、基部で 3 岐し、側枝は後側に更に枝を出すため、全形は五角形状となる。各枝は 2 回羽状全裂し、裂片は線状披針形でやや鎌状、長さ 1.2~2cm、幅 3~4mm、葉脈は中肋に沿って 1 列の網目をつくる。胞子のう群は葉縁に沿ってつき、葉縁が反転した偽包膜に包まれる。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊川宝飯（小林 55031）、豊橋北部（小林 57620）、渥美（小林 77184）。

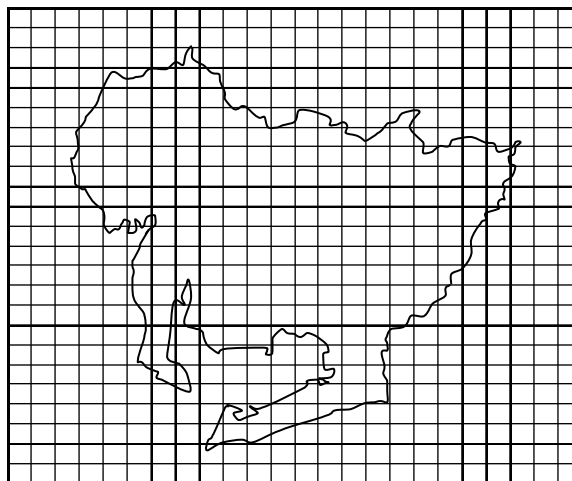
【国内の分布】

本州（千葉県以西の暖地）、四国南部、九州、琉球に生育する。紀伊半島南部では普通に見られる植物である。

【世界の分布】

アジアの熱帯・亜熱帯に分布し、東はサモアに達する。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

沢沿いの林内、林縁など。しばしばやや攪乱された場所に生育する。

| | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林 | ○ | | | |
| 草・岩 | | | | |
| 湿地 | | | | |
| 水域 | | | | |

【現在の生育状況 / 減少の要因】

豊川宝飯には 2 カ所に比較的大きな群落があるが、豊橋北部は少数株が自生しているだけである。渥美では一時消滅したが、最近再発見された。本種のようなやや陽地性のシダ植物は、分布域の北限付近では分布の拡大と消失を繰り返しているものと思われる。

【保全上の留意点】

地形の変更を伴わない軽度の攪乱は、本種のような植物の保全にはかえって好都合である。

【特記事項】

同属のハチジョウシダモドキ *P. oshimensis* Hieron. は愛知県では更に希少で、豊橋北部で幼株が 1 回採集されたことがあるだけである。定着に至っていないと判断されるので、評価の対象としなかった。

【関連文献】

保シダ p.60、平シダ p.139、SOS 旧版 p.38。
倉田 悟・中池敏之(編), 1979. 日本のシダ植物図鑑 1: 264-269. 東京大学出版会, 東京。

ツクシイワヘゴ *Dryopteris commixta* Tagawa

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 1。日本列島で多様に分化しているイワヘゴ群の 1 種で、愛知県では生育地が少なく、しかもそのいずれもが人為的影響を受けやすい場所である。

【形態】

常緑性の多年生草本。根茎は太く、短く、直立して葉を束生する。葉柄は長さ 25~40cm、葉身の半分程度、密に鱗片をつける。葉柄の鱗片は光沢がなく、黒褐色~淡黒色である。葉身は倒披針形から長楕円状倒披針形、単羽状、長さ 40~80cm、幅 15~25cm、先端は鋭尖頭である。羽片は 17~20 対、幅 1~2.5cm、羽状に浅~中裂する。胞子のう群は羽片全面に散在し、包膜はあまり発達しない。

【分布の概要】

【県内の分布】

新城（芹沢 62418）、豊橋北部（小林 55841）、豊田東部（芹沢 69759）。ただし豊田東部は 1 株だけで、偶産的である。日進長久手（日進町岩崎，犬飼 清 9558, 1989-5-30）にもあったが絶滅した。

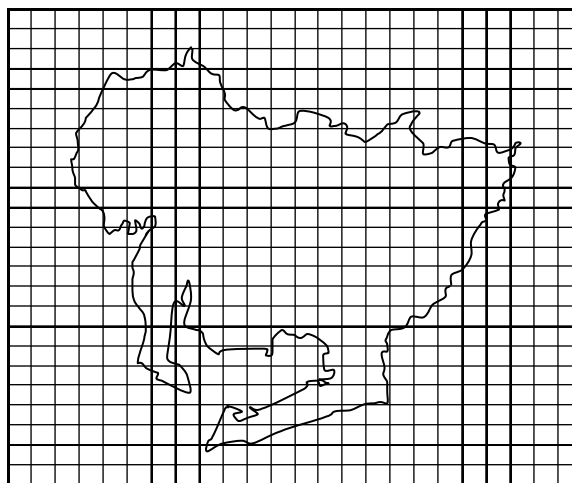
【国内の分布】

本州（石川県、千葉県以西）、四国、九州に分布するが、九州以外では少ない。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

沢沿いの林内に生育する。愛知県の自生地は、いずれも造林地や二次林内である。

| | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林 | ○ | ○ | | |
| 草・岩 | | | | |
| 湿地 | | | | |
| 水域 | | | | |

【現在の生育状況 / 減少の要因】

新城の集団は個体数が多いが、人里近くなので、開発行為の影響を受けるおそれがある。日進長久手は小群落があったが、台風による倒木と伐採で絶滅した。

【保全上の留意点】

特別な環境の場所に生育しているものではないので、生育地の個別的な保全が必要である。

【特記事項】

イワヘゴからは、羽片が少なく、包膜があまり発達しないことで区別できる。

【関連文献】

保シダ p.93、平シダ p.186。
倉田 悟・中池敏之(編), 1979. 日本のシダ植物図鑑 1: 428-433. 東京大学出版会, 東京。

ヌカイトチシダ *Dryopteris gymnosora* (Makino) C.Chr.

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 1。暖地性の植物で、愛知県では生育地が少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

常緑性の多年生草本。根茎は塊状となり、葉を束生する。葉柄は長さ 30～50cm、わら色または帯紅紫色、下部に黒褐色の鱗片をつける。葉身は卵状長楕円形～卵形、3回羽状浅裂し、長さ 30～45cm、幅 15～30cm、先端へ向けてやや急に狭くなる。羽片や小羽片は中軸や羽軸に広い角度でつき、葉質は薄い紙質で淡緑色、若い葉は紅紫色で美しい。胞子のう群は葉身の中央部に多くつき、包膜はない。

【分布の概要】

【県内の分布】

鳳来北西部（芹沢 49868）、額田（小林 80611）、岡崎北部（芹沢 47461）、犬山（村瀬正成 4099）。新城にもあるという（小林, 2000）。いずれの区画でも生育地は少なく、個体数も多くない。

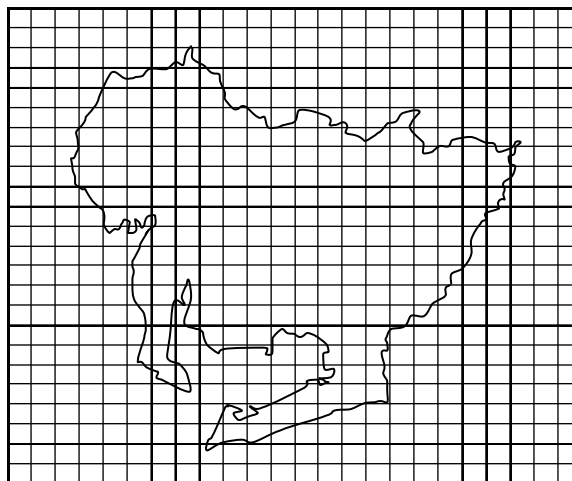
【国内の分布】

本州（関東地方以西）、四国、九州。

【世界の分布】

日本および中国大陸南部。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

沢沿いの林内。岩場や礫の多い場所に生育していることが多い。

| | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林 | ○ | | | |
| 草・岩 | | | | |
| 湿地 | | | | |
| 水域 | | | | |

【現在の生育状況 / 減少の要因】

現在のところ特に減少してはいないが、今後伐採や開発、砂防ダム建設等により減少する可能性は高い。

【保全上の留意点】

沢沿いの森林の保全が必要である。

【特記事項】

ベニシダ類は日本列島南西部で多様に分化し、無融合生殖複合群を作っているが、本種はその中で基本的な種の一つと考えられる。他のベニシダ類からは、葉質が薄く、胞子のう群が葉身の中央に多くつき、包膜がないことで容易に区別できる。

【引用文献】

小林元男, 2000. 新城地方の植物 p.69. 愛知県, 名古屋.

【関連文献】

保シダ p.105、平シダ p.195。

倉田 悟・中池敏之(編), 1979. 日本のシダ植物図鑑 1: 452-456. 東京大学出版会, 東京.

ナンカイイタチシダ *Dryopteris varia* (L.) O.Kuntze

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 2、人為圧階級 2、固有度階級 1。暖地性の植物で、愛知県では限られた範囲だけに生育しており、個体数も少ない。

【形態】

常緑性の多年生草本。根茎は短く塊状となり、少数の葉を束生する。葉柄は長さ 20~60cm、わら色で鱗片を密生する。葉柄基部の鱗片は赤褐色~暗赤褐色で光沢がある。葉身は広卵形~五角状広卵形で 2 回羽状複生し、長さ 30~60cm、幅 20~40cm、先端は急に狭くなって長鋭尖頭となる。羽片は線状披針形、基部から先に向かって狭くなる。葉質はやや厚く革質、表面は光沢があることもないこともある。孢子のう群は大きく、包膜は円腎形である。

【分布の概要】

【県内の分布】

知多南部(犬飼 清 7545)。この区画には点在するが、個体数は少ない。渥美半島にもありそうだが、典型的なものはまだ発見されていない。

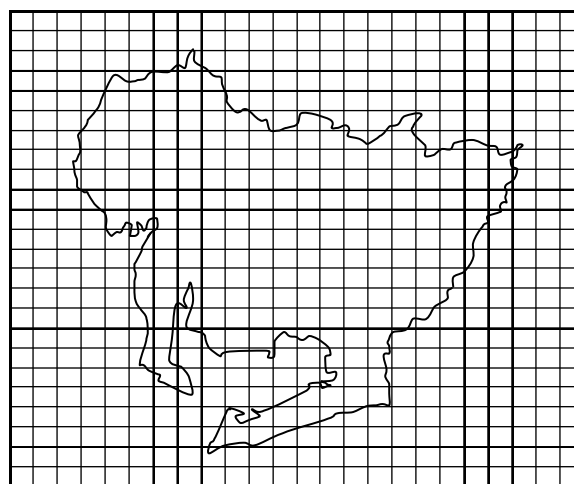
【国内の分布】

本州(千葉県南部以西)、四国、九州、琉球に分布し、海岸~近海地に多い。

【世界の分布】

日本からフィリピン、インドシナ、インドにかけて分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

造林地や二次林の林床、林縁の崖地などに生育している。

| | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林 | | ○ | | |
| 草・岩 | | | | |
| 湿地 | | | | |
| 水域 | | | | |

【現在の生育状況 / 減少の要因】

少数の個体が点在しているため状況を把握しにくい。丘陵地の開発の影響を受けて減少していることは確実である。

【保全上の留意点】

潜在的生育地である海岸近くの丘陵地の自然を、全体として保全することが重要である。

【特記事項】

他のイタチシダ類からは、葉の切れ込みが浅く、葉身の先端が尾状にのび、鱗片が赤褐色であることで区別できる。

【関連文献】

保シダ p.100、平シダ p.196。
倉田 悟・中池敏之(編), 1979. 日本のシダ植物図鑑 1: 512-518. 東京大学出版会, 東京。

ミヤマワラビ *Thelypteris phegopteris* (L.) Slosson ex Rydb.

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 1。温帯性の植物で、県内では生育地が少ない上、開発の影響を受けて減少している。

【形態】

夏緑性の多年生草本。根茎は細く、長く横走する。葉柄は長さ 10～30cm、わら色で下部に鱗片がある。葉身は三角状長楕円形、2 回羽状深～全裂、長さ、幅とも 10～15cm、先端は鋭尖頭になる。羽片の基部裂片は最下羽片を除き中軸に流れ、そのため中軸に不連続な翼があるように見える。裂片は長楕円形から三角状、鋭頭から円頭である。胞子のう群は裂片の辺縁近くにつき、包膜は円腎形である。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊根（村松正雄 15773）、津具（村松正雄 24408）、東栄（芹沢 79328）、足助（村松正雄 16760）。小群落が点在するのみである。

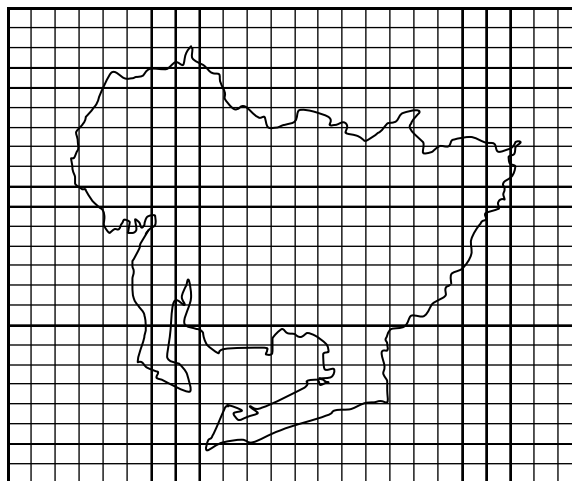
【国内の分布】

北海道、本州（中部地方以北）に多く、それより西では紀伊半島大峰山系、中国山地、九州（祖母山、屋久島）などに分布する。

【世界の分布】

北半球の温帯域に広く分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

温帯林の林床や林縁に群生する。愛知県の場合、豊根はそのような環境であるが、東栄では低地の風穴周辺に生育しており、温帯性の植物が暖帯域の低地に生育する例として特に重要である。

| | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林 | ○ | | | |
| 草・岩 | | | | |
| 湿地 | | | | |
| 水域 | | | | |

【現在の生育状況 / 減少の要因】

豊根村では茶臼山に多かったが、スキー場の建設をはじめとする観光開発によって自生地的大部分が破壊され、ほとんど見られなくなった。東栄町では、現在のところ良好な状態で生育しているが、路傍のため道路拡幅等による影響が懸念される。

【保全上の留意点】

鳳来町北東部から東栄町にかけて点在する風穴の周辺には、低標高地であるにもかかわらず多くの温帯性植物が生育している。このような場所は、周辺の森林を含めて、特に注意して保全する必要がある。また、茶臼山一帯は温帯性植物の生育地として重要であり、自然とのふれあいの場を確保するという意味でも、これ以上の開発を避けるべきである。

【関連文献】

保シダ p.107、平シダ p.210、SOS 旧版 p.40。
倉田 悟・中池敏之(編), 1983. 日本のシダ植物図鑑 3: 286-294. 東京大学出版会, 東京.

ミヤマシケシダ *Deparia pycnosora* (Christ) M.Kato

【選定理由】

個体数階級 1、集団数階級 4、生育環境階級 2、人為圧階級 2、固有度階級 2。温帯性の植物で、愛知県の 1 カ所にやや隔離的に分布しており、分布域の南限にあたる。

【形態】

夏緑性の多年生草本。根茎は斜上または直立し、葉を束生する。葉はやや 2 形になり、胞子のうをつける葉は葉柄が長く、直立し、つけない葉は葉柄が短く、開出または斜上してつく。葉柄は長さ 10~20cm、基部に鱗片があるほかはほとんど無毛である。葉身は長楕円形で 2 回羽状深裂し、長さ 35~60cm、幅 10~20cm、先端は鋭尖頭、下部は次第に狭くなるが、通常基部羽片が極端に短くなることはない。胞子のう群は裂片の中肋の両側にならんでつき、包膜は半月形である。

【分布の概要】

【県内の分布】

藤岡 (塚本威彦 1722)、豊田北西部 (畑佐武司 28)、瀬戸尾張旭 (村松正雄 84-222)。3 区画にまたがるが、実質は猿投山が唯一の自生地である。猿投山では、豊田市側には多いが、藤岡、瀬戸側では少ない。

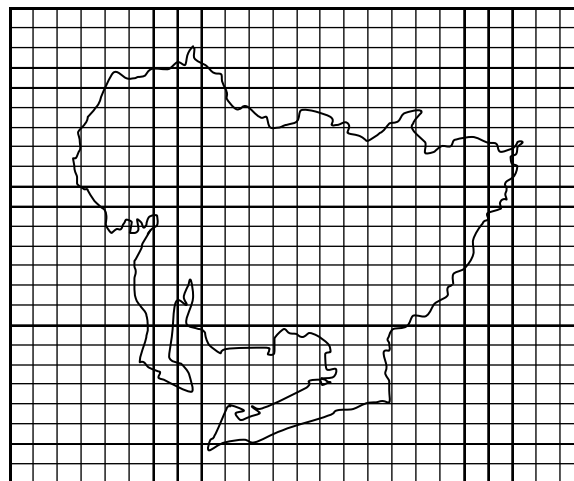
【国内の分布】

北海道および本州中部以北に分布する。本州中部では内陸の山地に多く、日本海側の山地にはほとんど見られないが、太平洋側にも少ない。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

温帯の林内や林縁。猿投山では造林地の林内に多い。

| | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林 | ○ | | | |
| 草・岩 | | | | |
| 湿地 | | | | |
| 水域 | | | | |

【現在の生育状況 / 減少の要因】

生育範囲は狭いが、個体数は多く、生育状態も良好である。

【保全上の留意点】

本種は個体数が多いので、個体レベルの保護に限ればそれほど神経質になる必要はないと思われる。しかし、猿投山は本種に限らず注目すべき植物が多く、自然環境の総合的な保全が必要である。

【特記事項】

長野県中部まで行けば普通に見られる種類であるが、猿投山に隔離的に分布し、しかも多産するのは注目に値する。ハクモウイノデは県内の山地に広く分布するが、猿投山では極めて少ない。

【関連文献】

平シダ p.245。

ホテイシダ *Lepisorus annuifrons* (Makino) Ching

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 1。自然度の高い森林に依存する温帯性の植物で、県内では生育地が少なく、また伐採などの影響を受けやすい。

【形態】

夏緑性のシダ植物。根茎は横にはう。葉柄は緑色～わら色で長さ 3～5cm、葉身は単葉で披針形、黄緑色、基部はくさび形、多くは中央より下で最も幅広く、先端に向けて次第に狭くなり、大きなものは長さ 20cm、幅 3cm くらいになるが、愛知県のは長さ 10～15cm 程度である。葉縁は不規則に波状になることが多い。胞子のう群は円形で直径約 2mm、中肋よりに 1 列に並んでつく。

【分布の概要】

【県内の分布】

富山（芹沢 67368）、豊根（芹沢 44563）、稲武（塚本威彦 2346）。津具（萩太郎山，岡田善敏 s.n., 1948-7-4）、旭（伯母沢，大原準之助 s.n., 1964-8-26）で採集された標本もある。

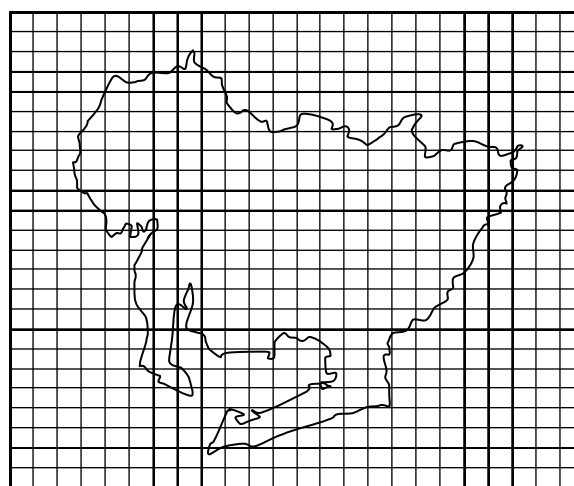
【国内の分布】

北海道、本州、九州の温帯域に分布する。

【世界の分布】

日本および朝鮮半島。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

温帯林のブナ、ミズナラなどの老木の樹幹に着生する。コケの多い岩上に生育することもある。

| | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林 | ○ | | | |
| 草・岩 | | | | |
| 湿地 | | | | |
| 水域 | | | | |

【現在の生育状況 / 減少の要因】

小形の植物だけに、個体数階級 2 でも量的には少ない。過去に森林の伐採により激減し、最近でも夏期の高温乾燥傾向によって次第に衰退して、現在に至っているものと思われる。

【保全上の留意点】

本種が生育できるような自然度の高い森林は、愛知県では僅かに残存するだけであり、現在残っている林は厳重に保全する必要がある。

【特記事項】

ウラボシ科は熱帯・亜熱帯に多く、本種のような温帯性で夏緑性の種は数少ない。和名は、幅の広い葉を布袋に例えたものである。

【関連文献】

保シダ p.157、平シダ p.265。
倉田 悟・中池敏之(編), 1981. 日本のシダ植物図鑑 2:374-380. 東京大学出版会, 東京.

コウラボシ *Lepisorus uchiyamae* (Makino) H.Ito

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 2、人為圧階級 2、固有度階級 2。暖地性の植物で、県内では生育地が少なく、そのいずれもが人為的影響を受けやすい場所である。

【形態】

夏緑性のシダ植物。根茎は横走し、鱗片をやや密につける。葉柄は長さ 5cm に達することがある。葉身は単葉、狭披針形で鋭頭、長さ 7~12cm、葉質は薄く、淡緑色~黄緑色である。胞子のう群は円形で、葉縁と中肋の間に 1 列に並んでつく。

【分布の概要】

【県内の分布】

鳳来南部（小林 63197）、鳳来北西部（加藤等次 1793）、新城（芹沢 62421）。鳳来町のもの小群落であるが、新城では個体数が比較的多い。

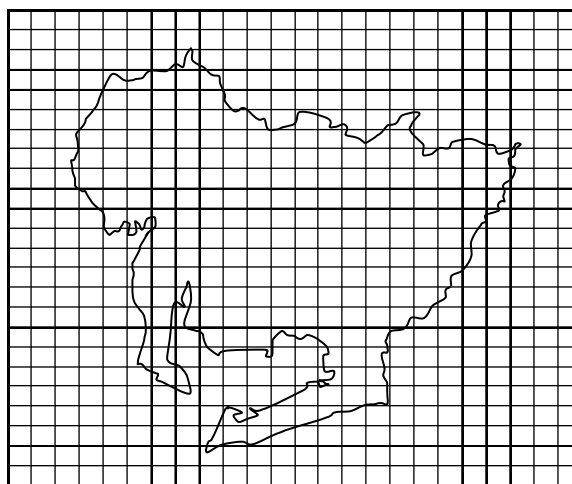
【国内の分布】

本州（伊豆半島、東海地方、紀伊半島、中国地方西部）、四国（瀬戸内側を除く）、九州、琉球に分布する。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

通常は海岸近くの岩上に生育する。石垣に生育することも多い。愛知県の自生地は山里の石垣で、本種としては珍しいくらい内陸よりである。

| | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林 | | | | |
| 草・岩 | | ○ | | |
| 湿地 | | | | |
| 水域 | | | | |

【現在の生育状況 / 減少の要因】

新城では現在のところよく生育しているが、道路の拡幅計画があり、また古い石垣が次第に改修されるため、激減ないしは絶滅するおそれがある。

【保全上の留意点】

本種が生育しているような山里の石垣は、一つの文化遺産でもある。生育地の状態を現状通り保全することが必要である。

【特記事項】

表記の学名は琉球列島の植物に命名されたものであるが、琉球列島のものは小型で常緑性、通常海岸の岩場に生育するのに対し、九州本土以北のものはやや大型で夏緑性、海岸近くの集落や水田の石垣などに多い。両者は何らかの形で区別できるものと思われ、今後詳細な検討が必要である。九州本土以北のものは、「コウラボシ」というほど小型の植物ではない。

【関連文献】

保シダ p.157、平シダ p.265、SOS 旧版 p.42。
倉田 悟・中池敏之(編), 1981. 日本のシダ植物図鑑 2: 450-454. 東京大学出版会, 東京。

オオクボシダ *Xiphopteris okuboi* (Yatabe) Copel.

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 2。深山性の小形の植物で、伐採等の影響を受けやすく、採取圧もある。

【形態】

小型の常緑性のシダ植物。根茎は短く斜上し、数枚の葉を放射状につける。葉は短い柄があり、葉身は狭披針形から線形、長さ 5cm 程度かそれ以下のものが多く、羽状に深裂する。側裂片は長楕円形、両面に黒褐色～赤褐色のやや硬い開出毛をつける。胞子のう群は楕円形で、裂片の基部近くに 1 個ずつ並ぶ。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊根（芹沢 49209）、津具（芹沢 83053）、設楽西部（芹沢 80177）、稲武（村松正雄 17225）、瀬戸尾張旭（村松 89-251）。下山にもあるが、まだ標本を採取していない。富山にもあるという（小林, 2006）。

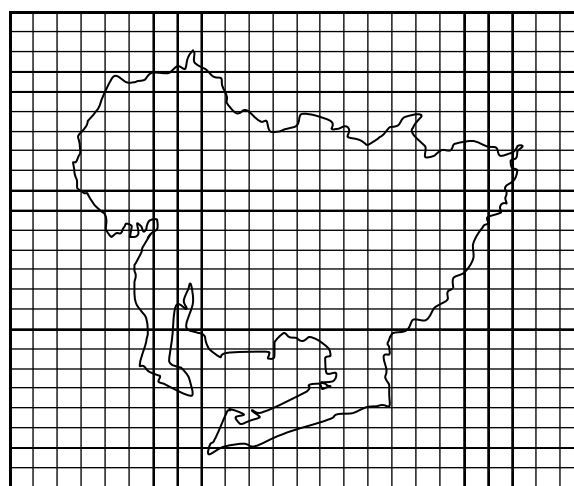
【国内の分布】

本州（関東地方以西）、四国、九州の山地に分布する。

【世界の分布】

日本、台湾、海南島。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の沢沿いの陰湿な岩上に、コケにまじって生育していることが多い。樹幹に着生することもある。

| | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林 | ○ | | | |
| 草・岩 | | | | |
| 湿地 | | | | |
| 水域 | | | | |

【現在の生育状況 / 減少の要因】

小形の植物であるため、個体数階級は 2 でも、実際の量はごく僅かである。尾張では 1 カ所にわずかに生育しているだけで、絶滅寸前であり、特に保護上の重要性が高い。沢沿いの森林の伐採によって生育できる環境が減少している上、マニアに採取されることも多い。

【保全上の留意点】

他の着生シダ植物と同様、空中湿度の高い環境を保全しなければ、本種の存続は望めない。その一方でマニアの採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

シダ植物の中では、最も小さいものの一つである。ヒメウラボシ科の植物は熱帯の雲霧林に多く、その中で本種は、最も北に分布する種である。

【引用文献】

小林元男, 2006. 北設楽の植物 p.119. 愛知県林業試験研究推進協議会, 新城.

【関連文献】

保シダ p.167、平シダ p.281。

倉田 悟・中池敏之(編), 1981. 日本のシダ植物図鑑 2: 630-634. 東京大学出版会, 東京.

ウラジロモミ *Abies homolepis* Sieb. et Zucc.

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 1。温帯性の樹木で、自然林の構成樹種である。愛知県では生育地、個体数ともに少ない。

【形態】

常緑性の高木。幹は高さ 30～40m、直径約 1m になる。樹皮は灰色～灰褐色、鱗片状にはがれる。若枝は黄褐色で毛がない。葉は線形でやや扁平、長さ 10～25mm、幅 2～3mm、先端は鈍形～凹形、表面は濃緑色、裏面には 2 条の白色で幅広い気孔帯がある。花期は 5～6 月、雄花は楕円形で長さ 1～3cm、黄褐色、雌花は長円柱形で長さ 5～6mm、紫赤色である。毬果はその年の秋に熟し、直立して長楕円状円柱形、長さ 7～12cm、直径 3～4cm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊根（芹沢 70611）、津具（村松正雄 24411）。愛知県では、茶臼山周辺の限られた範囲に生育しているだけである。

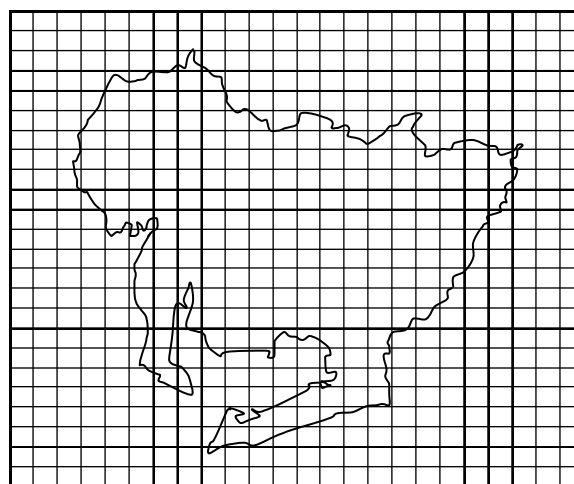
【国内の分布】

本州の太平洋側（東北地方南部～紀伊半島）および四国。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

標高 1,000～2,000m の山地に、ふつうは落葉広葉樹と混交林を作って生育する。一般に、モミよりは標高が高く、シラベよりは標高の低いところに見られる。

| | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林 | ○ | | | |
| 草・岩 | | | | |
| 湿地 | | | | |
| 水域 | | | | |

【現在の生育状況 / 減少の要因】

生育範囲は狭く、高木であるだけに成木の個体数も少ない。現地の自然林は、過去の牧場開発、観光開発、拡大造林などによって狭められ、現在は急傾斜地などに残存するだけである。

【保全上の留意点】

自然林は愛知県では僅かに残存するだけであり、現在残っている林は厳重に保全する必要がある。また茶臼山周辺は、愛知県の中では希少な温帯性植物が、集中して生育している場所である。自然とのふれあいの場を確保するという意味でも、これ以上の開発を避けるべきである。

【特記事項】

若枝に毛がないことが特徴で、この点でモミやシラベから区別できる。

【関連文献】

保木 II p.442、平木 I p.9。

コウヤマキ *Sciadopitys verticillata* (Thunb.) Sieb. et Zucc.

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 2。岩崖地の自然植生を特徴づける種である。

【形態】

常緑性の高木。幹は高さ 30~40m、直径約 1m になる。樹皮は灰褐色~赤褐色、縦裂して長い鱗片状にはがれる。枝には長枝と短枝があり、長枝ははじめ淡緑色、のちに褐色となり、無毛、卵状三角形で褐色膜質、長さ 2mm 内外の鱗片葉がらせん状に付く。短枝は長枝のところどころに輪生し、先端に線状葉をつける。線状葉は長さ 6~12cm、幅 2~4mm、表面は深緑色、裏面は中央のくぼみに白色の気孔帯があり、その両側は緑色である。花期は 3~4 月、雄花は楕円形で長さ約 7mm、20~30 が密生する。毬果は翌年の秋に熟し、円筒状長楕円形で先は丸く、褐色、長さ 6~12cm、直径 4~6cm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

津具（芹沢 70596）、東栄（芹沢 69654）、設楽西部（小林 38263）、鳳来北東部（小林 36218）、作手（小林 55926）、旭（岡田兼光 3）、小原（日比野修 2910）、藤岡（日比野修 3584）。ただし小原と藤岡は逸出の可能性がある。

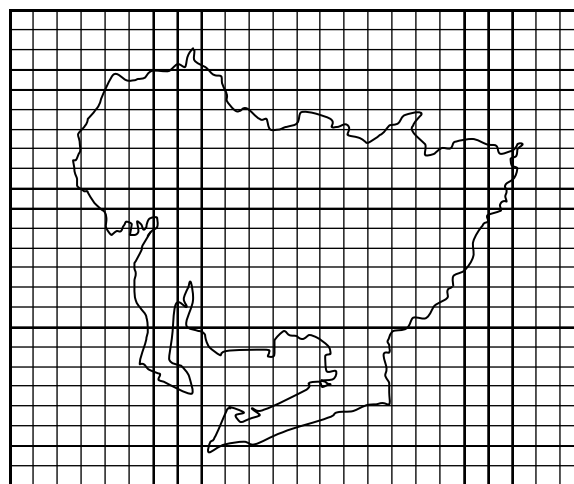
【国内の分布】

本州（福島県以南）、四国、九州（宮崎県まで）。観賞用として社寺、庭園などに植栽されることもある。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

通常は山地の岩崖地ややせた尾根などに生育している。

| | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林 | ○ | | | |
| 草・岩 | ○ | | | |
| 湿地 | | | | |
| 水域 | | | | |

【現在の生育状況 / 減少の要因】

まとまった集団は、人が近づきにくい急峻な場所に残存しているだけである。もともとはより広い範囲に生育していたが、有用樹として伐採され、現在の状態にまで減少したのではないと思われる。

【保全上の留意点】

現在残っている林は、嚴重に保全する必要がある。

【特記事項】

日本固有の 1 科 1 属 1 種の植物である。新城市作手鴨ヶ谷甘泉寺には、国指定天然記念物とされている大木がある。

【関連文献】

保木 II p.422、平木 I p.16、SOS 新版 p.42,44。

ネズミサシ *Juniperus rigida* Sieb. et Zucc.

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 1、固有度階級 1。岩崖地の自然植生を特徴づける種である。愛知県の丘陵地にはネズミサシとハイネズの浸透性交雑に由来すると推定されるオキアガリネズが広く分布しており、この地域の特徴の一つになっている。本種はその片親であり、地域の特徴的自然という観点から、遺伝的に純粋な集団の保全は重要な意味がある。なお、ここで準絶滅危惧としているのは純粋集団についてであり、オキアガリネズは対象外である。

【形態】

常緑性の高木または亜高木。幹は直立し、高さ約 10m、直径約 30cm になる。樹皮は灰褐色で、縦に裂け、薄い鱗片状になってはがれる。葉は針形で 3 輪生し、長さ 10~25mm、幅約 1mm、先はとがって固く、触れると痛い。表面は平らで、深い白色気孔帯がある。雌雄異株で、花期は 4 月、雄花は楕円形、長さ約 4mm である。毬果は翌年の秋に熟し、球形で肉質、直径 8~9mm、成熟したものは黒紫色で粉白をおびる。

【分布の概要】

【県内の分布】

東栄（小林 39939）、設楽西部（小林 41681）、設楽東部（芹沢 62297）、鳳来北東部（芹沢 82165）。

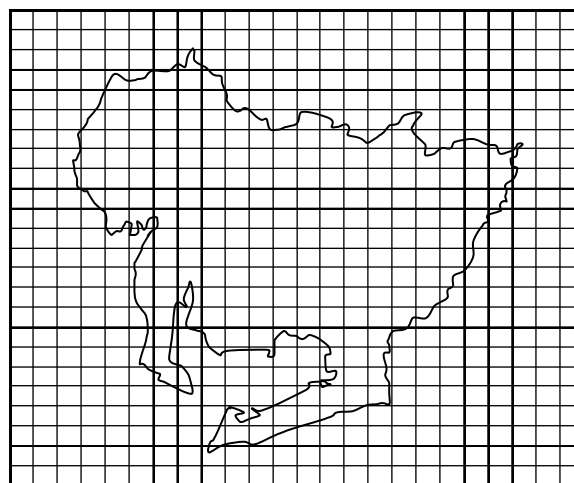
【国内の分布】

本州（岩手県以南）、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の岩場に生育するほか、瀬戸内地方ではやせた丘陵地にも多く見られる。ただし愛知県の場合、遺伝的に純粋な集団は山地に生育しているものだけで、丘陵地に生育しているものは多少なりともハイネズの遺伝子が入ったオキアガリネズである。

| | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林 | ○ | | | |
| 草・岩 | ○ | | | |
| 湿地 | | | | |
| 水域 | | | | |

【現在の生育状況 / 減少の要因】

生育地は少なく、またどの自生地でも個体数が少ない。かたく緻密な材が得られるため、人が近づける場所に生育しているものは伐採されることがある。ただし、岩場など急峻な地形の場所に生育しているものは、当面消滅する可能性は少ない。

【保全上の留意点】

不用意な伐採や盗伐に対する注意が必要である。

【特記事項】

葉が針状で、ネズミの通り道に置くと刺して止めるから、ネズミサシという。単に「ネズ」と呼ばれることもある。

【関連文献】

保木 II p.408、平木 I p.18。

キヌヤナギ *Salix kinuyanagi* Kimura (図版 8)

【選定理由】

個体数階級 1、集団数階級 1、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 4。本地域の固有種で、平野部の低湿地を特徴づける種でもある。

【形態】

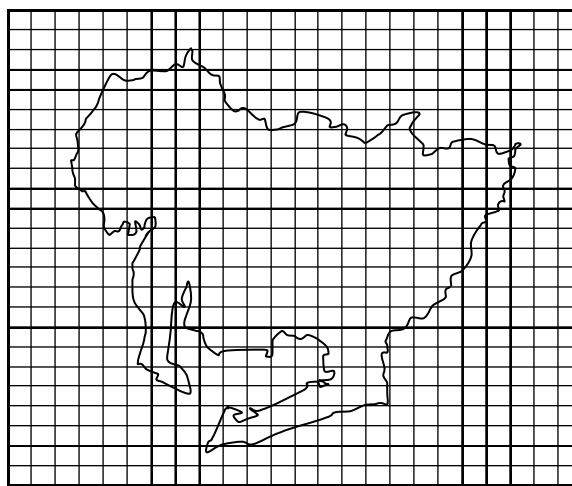
落葉性の低木または小高木。高さ 2~6m になる。小枝は長くてやや太く、灰色の軟毛が密生する。葉は狭披針形、長さ 10~20cm、幅 1~2cm、先端は長く鋭尖形、基部は鋭形または鈍形、辺縁はわずかに裏側に巻き、不明瞭な低い鋸歯があり、表面は緑色でやや光沢があり、裏面は銀白色の毛を密生する。雌雄異株で、花期は 3 月中旬~4 月上旬、雄花穂は楕円形~長楕円形で無柄、小枝にやや密につき、長さ 2.5~3.5cm、雌花穂は円柱形で長さ 3.5cm 程度である。

【分布の概要】

【県内の分布】

足助(芹沢 72419)、小原(日比野修 2102)、豊田東部(畑佐武司 3358)、豊田北西部(畑佐武司 3599)、岡崎北部(村松正雄 17675)、岡崎南部(小林 75113)、安城(堀田喜久 7994)、瀬戸尾張旭(芹沢 73859)、大府東浦(中村裕治 683)、犬山(芹沢 78406)、小牧(村松正雄 17161)、春日井(村松正雄 16218)、名古屋北部(村松正雄 17640)、名古屋南東部(芹沢 77448)、名古屋南西部(芹沢 77268)、一宮木曾川(芹沢 66039)、尾西(村松正雄 17069)、海部西部(芹沢 64657)、海部東部(芹沢 74450)、海部南部(高木順夫 11872)。河川敷のヤナギ林の構成種であるが、木曾川以外では少ない。このほかにも県内のところどころに生育しているが、その多くは植栽か、植栽起源の逸出品と思われる。

要配慮地区図



【国内の分布】

愛知県および岐阜県(木曾三川下流部、庄内川、矢作川水系)と滋賀県(琵琶湖岸)に分布する。ただし、北海道および東北地方北部に分布するエゾノキヌヤナギ *S. pet-susu* Kimura との差違は軽微である。

【世界の分布】

日本固有種。種の範囲を大きく取り、エゾノキヌヤナギも含めて、日本、朝鮮半島、中国大陸北東部、シベリア東部に分布(この場合学名は *S. schwerinii* E. Wolf とする)とする見解もある。

【生育地の環境 / 生態的特性】

河川敷などの低湿地に生育する。中流の渓谷部では見られず、また最下流部にもない。ネコヤナギとの雑種であるミヤコヤナギは、中流部(例えば稲武名倉川、芹沢 82860)まで生育している。

| | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林 | | | | |
| 草・岩 | | | | |
| 湿地 | | | ○ | |
| 水域 | | | | |

【現在の生育状況 / 減少の要因】

河川敷の開発により、本種が生育可能な場所は著しく減少している。ただし、現在のところまだ個体数は多く、増水や一時的造成などで攪乱された場所にも多数の若木が生育している場合がある。

【保全上の留意点】

増水などによる適度の攪乱は、本種の個体群維持のためにはむしろ望ましいことである。

【特記事項】

葉裏に白色の絹毛が多く美しいのでキヌヤナギという。本種は本州(主として関東地方以西)、四国、九州で広く栽培されており、従来は雄株しか知られていなかったため、江戸時代に朝鮮半島などから渡来したものと考えられてきた。しかし実際には、これもかつては中国原産と考えられていたシデコブシと同様、名古屋周辺で選抜育種され、全国に広まった植物であろう。

【関連文献】

保木 II p.320、平木 I p.43、SOS 旧版 p.45+図版 27、SOS 新版 p.134,136。

フモトミズナラ *Quercus crispula* Blume var. *mongolicoides* (H.Ohba) Seriz.

【選定理由】

個体数階級 1、集団数階級 1、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有度階級 3。現在は生育地も個体数も多いが、二次林の構成種であること、強い開発圧があること、固有分類群であることにより、準絶滅危惧と判断される。

【形態】

落葉性の高木。幹は高さ 15m くらいになる。若枝は太くても直径 3mm 程度、帯紫褐色、ほぼ無毛である。葉は互生し、ほとんど無柄か長さ 5mm 以下の短柄があり、葉身は通常倒洋梨形、長さ 12~22cm、幅 5~15cm、先端は丸味を帯びて鈍頭、基部は円形~浅い心形、辺縁の鋸歯は 10~15 対で、円~鈍頭である。花期は 4 月、雄花序は新枝の下に多数ついて下垂し、雌花は新枝の上部の葉腋からでる短枝に数個つく。果実はその年の初秋に熟し、広楕円形、長さ約 2cm、殻斗は杯状で、多数の鱗状の総苞片におおわれる。新葉は黄緑色で、この時期には遠くからでも容易に確認できる。

【分布の概要】

【県内の分布】

設楽西部(芹沢 55917)、新城(芹沢 54956)、豊川宝飯(青山正宏 84)、豊橋北部(小林 63480)、旭(芹沢 56542)、小原(芹沢 56576、ややミズナラに近い)、藤岡(芹沢 57526)、豊田東部(芹沢 58585)、豊田北西部(芹沢 55576)、三好(芹沢 71456)、瀬戸尾張旭(芹沢 80618)、日進長久手(芹沢 77811)、小牧(日比野修 4963)、春日井(芹沢 55309)、名古屋北部(芹沢 56234)。

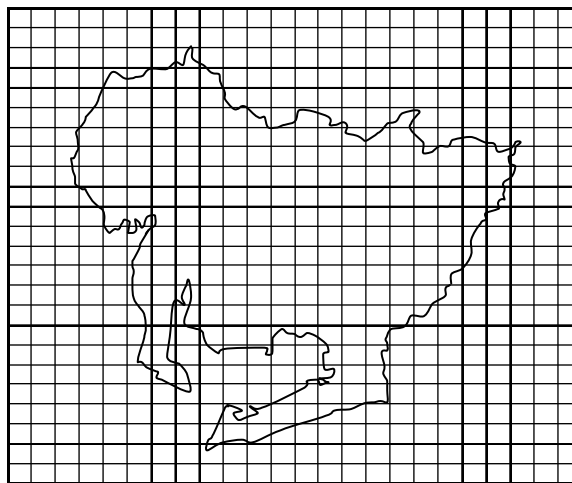
【国内の分布】

東海地方(愛知県および岐阜県東濃地方)。ただし形態的にほとんど区別できないものが、関東地方北部にある。北海道北部の海岸にも似たものがあるが、これは別系統と思われる。

【世界の分布】

日本固有。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

やせた丘陵地の、主として中腹から尾根にかけて生育する。山地の一部にも見られる。沢沿いには通常生育しない。

| | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林 | | ○ | | |
| 草・岩 | | | | |
| 湿地 | | | | |
| 水域 | | | | |

【現在の生育状況 / 減少の要因】

瀬戸市を中心に、豊田市西部から日進市、名古屋市守山区、春日井市にかけてが分布の中心域で、この範囲では現在のところまだ個体数は多く、場所によっては優占種になっている。しかし、本種の生育する浅い丘陵地は全域にわたって宅地造成、工場用地造成、珪砂の採掘など強い開発圧にさらされており、本種も減少の一途をたどっていて、その点で将来の存続が懸念される。分布域の周辺部では個体数が少なく、小牧市大草では伐採・開発により僅かに残存するだけになった。

【保全上の留意点】

愛知県のやせた丘陵地は、点在する湧水湿地以外の場所でも本種やオキアガリネズ、ミカワツツジなど特徴的な樹木が生育しており、また森林の発達が悪いためウンヌケをはじめとする多くの草性植物が残存している。湿地以外の場所も保全上重要であることを認識する必要がある。

【特記事項】

愛知県の丘陵地を特徴づける植物の一つで、従来「モンゴリナラ」と呼ばれていたものである(芹沢, 2008)。固有分類群であるがミズナラからの分化程度は低く、そのため固有度階級が 3 と評価されている。本来温帯性のミズナラ系植物が暖帯域の丘陵地に生育しているという点でも重要である。基準標本 (T.Miyazaki N0512004, 2005-12-8) は東京大学総合研究博物館 (TI) に保管されている。

【引用文献】

芹沢俊介, 2008. 東海地方丘陵地の「モンゴリナラ」. シデコブシ 1: 54-55.

【関連文献】

SOS 旧版図版 4、SOS 新版 p.70,72 (どちらもモンゴリナラとして)。

サイコクヌカボ *Persicaria foliosa* (H.Lindb.) Kitagawa var. *nikaii* (Makino) H.Hara

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 2。全国的に減少傾向の著しい低湿地性植物である。愛知県では点在するが、どの場所でも特定の地点に生育しているにすぎない。

【形態】

1年生草本。茎の下部は斜めに倒れ、節から根を出し、上部は斜上して枝を分け、高さ 30~60cm になる。葉は短い柄があり、葉身は長披針形~長線形、長さ 3~9cm、幅 2~9mm、両端は細まり、葉質はヌカボタデなどに比べやや厚い。托葉鞘は筒状で、長さ 5~10mm、ほぼ同じ長さの縁毛がある。花期は 9~10 月、総状花序は長さ 5~6cm で先端はたれ、まばらに花をつける。がくは 5 裂し、淡紅色、長さ約 1.5mm である。そう果はレンズ形、黒褐色で光沢があり、長さは約 1.5mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊橋北部(芹沢 68833)、田原赤羽根(芹沢 57916)、渥美(小林 48342)、幡豆(小林 60468)、瀬戸尾張旭(村松正雄 16512)、春日井(村松正雄 18910)、東海知多(鳥居ちよ子 2610)。低湿地性の葉が細いタデ類の中では最も多くの場所に生育しているが、現在のところ木曾三川下流部では確認されていない。

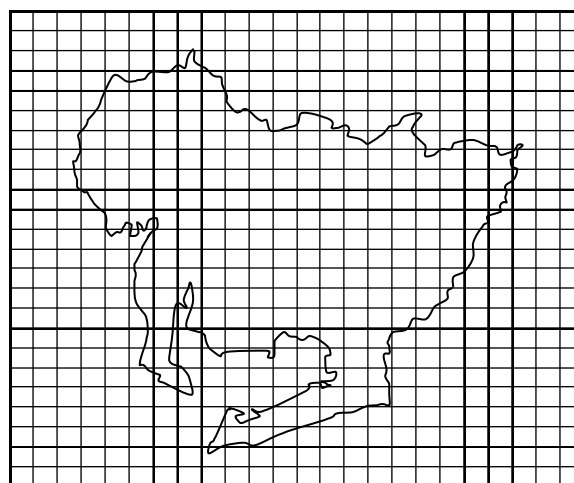
【国内の分布】

本州(中部地方以西)、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有。種としても日本固有といわれている。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

河川敷、ため池の周辺などの低湿地に生育する。愛知県ではため池の岸に多く、河川敷では少ない。また、通常はヌカボタデ(339 頁)ほど群生しない。

| | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林 | | | | |
| 草・岩 | | | | |
| 湿地 | | ○ | ○ | |
| 水域 | | | | |

【現在の生育状況 / 減少の要因】

個体数に関しては、年変動が著しい。ため池の改修や水の汚れによって、確認できなくなった場所もある。

【保全上の留意点】

やや貧栄養状態の場所では、概して生育状態はよくないものの、比較的安定して生育している。しかし富栄養化した場所では、適度な攪乱がないと存続できない。もちろん公園化などの過度の攪乱があれば、存続できなくなる。

【特記事項】

低湿地を特徴づける狭葉性のタデ類の 1 種である。「植物からの SOS」(SOS 旧版)ではヤナギヌカボとして扱われているが、環境庁レッドデータブックに従いヤナギヌカボとサイコクヌカボを区別すれば、愛知県のものは全てサイコクヌカボになる。ヤナギヌカボは花序が短いもので、隣接する岐阜県側にはあるが、愛知県内ではまだ確認されていない。なお、「日本の野生植物」Ⅱ 21 図版にヤナギヌカボとして掲載されている写真は、ヤナギタデである。

【関連文献】

保草Ⅱp.312、SOS 旧版 p.47 (ヤナギヌカボとして)、環境庁 p.275、SOS 新版 p.115,117。

ナガバノウナギツカミ *Persicaria hastato-sagittata* (Makino) Nakai

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 2、人為圧階級 3、固有度階級 2。低湿地性の植物で、愛知県では減少傾向が著しい。

【形態】

1 年生草本。茎の下部は倒伏して枝を分け、上部は直立して高さ 40~70cm になる。葉柄はアキノウナギツカミより明瞭で、長さ 3cm に達する。葉身は線状楕円形が多いが卵状長楕円形のこともあり、長さ 5~10cm、幅 1~2(~4)cm、先端は鋭尖頭、基部は小さく 3 裂することが多いが、ほとんど切形のこともある。托葉鞘は筒状で長さ 1~3cm、短い縁毛がある。花期は 9~10 月、総状花序は短く、密に花をつける。花序の柄には黒褐色の腺毛が密生する。がくは 5 裂し、上部は紅紫色、花時に長さ 3~4mm である。そう果は 3 稜形、黒褐色で光沢があり、長さ 2~3mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊橋北部(芹沢 53517)、田原赤羽根(芹沢 57643)、豊田東部(芹沢 50809)、幡豆(壁谷重美子 892)、瀬戸尾張旭(村松正雄 20128)、日進長久手(半田多美子 818)、岩倉西春(鈴木幸子 119)、名古屋南西部(高木順夫 3990)、一宮木曾川(芹沢 70908)、尾西(芹沢 77719)、稲沢平和(家田春俊 127)、海部西部(山田茂貴 885)。海部東部(甚目寺町下萱津, 芹沢 60930, 1991-12-8)にもあったが、絶滅した。上記区画のいくつかでも、実際にはすでに絶滅している可能性がある。刈谷知立(刈谷市小堤西池、芹沢 40928, 1984-10-15)などで採集された標本もある。

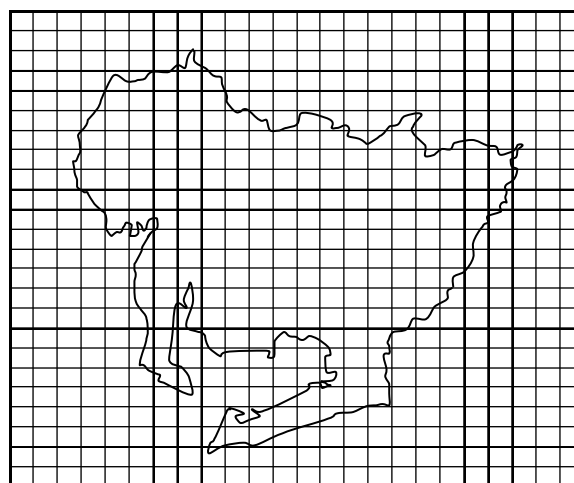
【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、台湾、中国大陸南部。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

ため池や湿田の周辺、河川敷、休耕田などに生育する。

| | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林 | | | | |
| 草・岩 | | | | |
| 湿地 | | ○ | ○ | |
| 水域 | | | | |

【現在の生育状況 / 減少の要因】

点在するが、どの場所も個体数は少ない。耕地整理や乾田化の進行、ため池の改修や水の汚れなどにより、観察できる機会は著しく減少している。ある場所で消失してもまた別の場所に出現することがあり、どの区画でも絶滅と断定しにくいいため準絶滅危惧と評価されたが、実際の状況はもっと危機的かもしれない。

【保全上の留意点】

平野部に残存する湿田や未整理耕地は、本種を含め、多くの現在では稀少になってしまった生物の生育・生息場所になっている。過去の農業形態を示す文化財としても重要である。現に生産活動が行われている場所であるため難しい問題はあるが、代表的な場所については保全を図るべきである。

【特記事項】

花は紅紫色で、アキノウナギツカミよりはるかに目立つ。

【関連文献】

保草Ⅱ p306、平草Ⅱ p.20。

コミゾソバ *Persicaria mikawana* Hanai et Seriz.

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 2。湿地性の植物で、東海地方は主産地であるが、それでも生育地は少ない。

【形態】

1年生草本。主軸は長さ15～80cm、基部はあまり倒伏せず、閉鎖花序枝を出さない。葉は1～3.5cmの柄があり、葉身は長さ3～7cm、幅2～5cm、先端は突出して鈍端、基部は浅い心形、頂裂片は卵状五角形で基部ははつきりくびれ、側裂片は葉長の割に大きくてほとんど円頭になる。花期は8～9月、花序は小さく、少数の花をつける。花序群も少数（しばしば1個のみ）の花序からなる。がくは長さ3～4mm、帯紅色または帯緑色、そう果は淡褐色でやや光沢があり、長さ約3mmである。

【分布の概要】

【県内の分布】

津具（芹沢 78739）、作手（花井隆晃 3266）、下山（芹沢 83066）、額田（芹沢 81251）、岡崎南部（芹沢 80097-基準標本）、瀬戸尾張旭（芹沢 82038）、犬山（芹沢 82644）。名古屋北部（千種村，天野景従 s.n., 1910-10-23, MAK）で採集された標本もある。

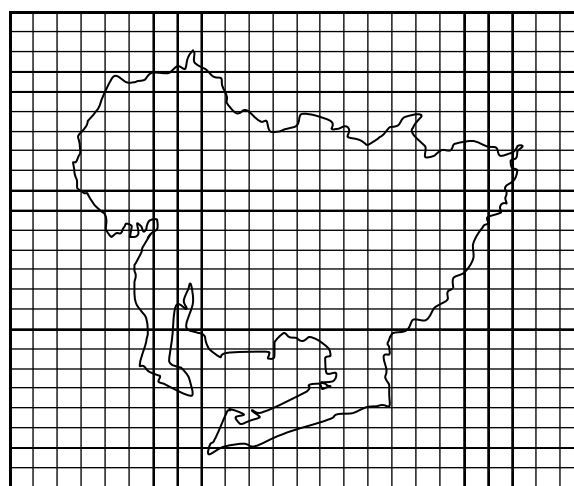
【国内の分布】

本州（福島県～兵庫県）。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

丘陵地～山地の、やや貧栄養の、しかし極度に貧栄養ではない湿地の、林縁や林内に生育する。

| | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林 | | | | |
| 草・岩 | | | | |
| 湿地 | ○ | ○ | | |
| 水域 | | | | |

【現在の生育状況 / 減少の要因】

下山の一部と岡崎南部（池金町）の北山湿地には比較的多いが、他はどこも小群落である。一部の場所では森林化が進行して湿地が暗くなり、衰退している。

【保全上の留意点】

ある程度は被陰に耐えられる植物であるが、それでもあまり暗くなると生育できない。湿地周辺の樹木を伐採して光条件を確保する必要がある。本種に限れば適度の攪乱はむしろ好都合であるから、作業に際し過度に神経質になる必要はない。

【特記事項】

2008年に新種として記載された植物で（花井・芹沢, 2008）、基準標本産地は岡崎南部の北山湿地である。

【引用文献】

花井隆晃・芹沢俊介, 2008. 日本のミゾソバ類. シデコブシ 1: 3-26.

オオミゾソバ

Persicaria thunbergii (Sieb. et Zucc.) H. Gross subsp. *hastatotriloba* (Meisn.) Sugim.

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 2、人為圧階級 2、固有度階級 2。東北日本に多い湿地性の植物で、愛知県は分布域の東限にあたる。

【形態】

1年生草本。主軸は長さ 60～150cm、基部は倒伏して長さ 30～150cm のつる状の閉鎖花序枝を出し、上部はほぼ直立する。葉は 4～7cm の柄があり、葉身は長さ 8～13cm、先端は鋭尖頭、基部は切形～ごく浅い心形、頂裂片は卵形で基部ははっきりくびれ、側裂片は大きくて左右に張り出す。花期は 9 月中旬～10 月中旬、花序は大きく、茎頂に集まってつく。がくは長さ 5.5～7mm、淡紅色または白色、そう果は淡褐色で光沢がなく、長さ約 4mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

津具（芹沢 78897）、設楽西部（芹沢 78895）、稲武（芹沢 78240）。作手（鴨ヶ谷～岩波、村田 源 13235, 1959-9-24, KYO）で採集された標本もある。

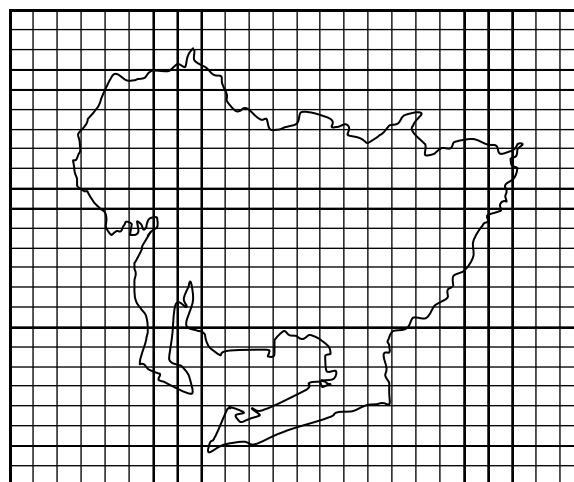
【国内の分布】

北海道（東南部）、本州（中北部の太平洋側）。

【世界の分布】

千島列島南部、サハリン、日本。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

湿地の日当たりのよい場所や明るい湿地林内に群生する。

| | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林 | | | | |
| 草・岩 | | | | |
| 湿地 | ○ | | | |
| 水域 | | | | |

【現在の生育状況 / 減少の要因】

生育地は少ないが、ある場所では群生していることが多い。

【保全上の留意点】

ある程度攪乱耐性がある植物なので、生育地を決定的に破壊しなければ存続すると思われる。

【特記事項】

レッドデータブックあいち 2001 植物編発行時には評価を保留した植物である。ミゾソバ subsp. *thunbergii* に比べ、長い閉鎖花序枝があり、花が大きい。

【関連文献】

花井隆晃・芹沢俊介, 2008. 日本のミゾソバ類. シデコブシ 1: 3-26.

トヨボタニソバ *Persicaria* sp. (図版 9)

【選定理由】

個体数階級 1、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 1、固有度階級 4。ほぼ愛知県固有の、未記載の植物である。

【形態】

1年生草本。茎は長さ 30~60cm、はじめ直立するがやがて上部が曲がり、枝を分けて垂れ、地に接するようになる。葉は長さ 1~3cm の柄があり、葉身は長さ 1.7~5.5cm、先端は多少なりとも鋭尖頭、基部はほぼ切形、浅く 3 裂し、頂裂片は三角形~卵状三角形で基部が最も広く、側裂片も三角形である。托葉鞘は長さ 1.5~3mm、短い縁毛がある。花期は 8~9 月、花は枝の先端にほとんど 1 個ずつつき、しばしば閉鎖花状になる。茎の下部の節からも長さ 1.5~10cm の細い枝を出し、その先に閉鎖花をつける。

【分布の概要】

【県内の分布】

富山 (芹沢 67334)、津具 (芹沢 70670)、設楽西部 (芹沢 83175)、稲武 (芹沢 82139)、旭 (芹沢 63183)。

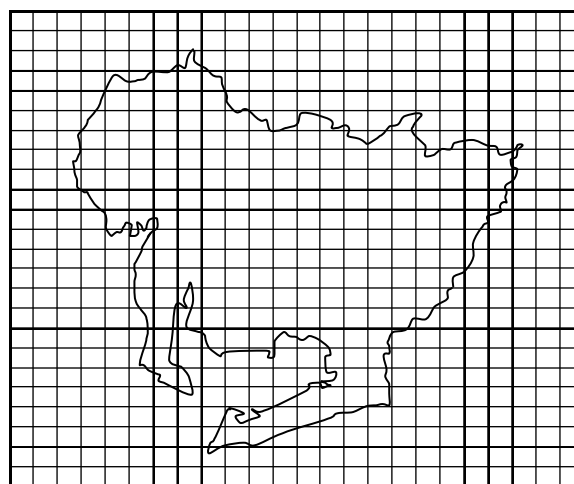
【国内の分布】

現在のところ愛知県以外では県境から僅かに長野県側に入った場所で確認されているだけで、実質的には愛知県固有である。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地沢沿いの湿地状の場所に生育する。比較的自然度の高い場所に多いが、林道わきなどに見られることもある。

| | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林 | | | | |
| 草・岩 | | | | |
| 湿地 | | ○ | ○ | |
| 水域 | | | | |

【現在の生育状況 / 減少の要因】

既知の生育地は限られているが、その場所ではたいてい群生している。現在のところ特に減少しているわけではないが、一部の場所ではニホンジカによる食害が見られる。

【保全上の留意点】

既知の生育地を保全する必要がある。1年生草本なので、生育地を決定的に破壊しなければ存続すると思われる。

【特記事項】

金沢大学の須山知香氏が研究中である。ミヤマタニソバに似ているが、花序の枝は長く伸びて地表に垂れ、先端に閉鎖花状の花をつける。葉はミヤマタニソバより明瞭に 3 裂し、頂裂片はやや卵形を帯びる。またミヤマタニソバの托葉鞘は先端がやや葉状になり縁毛がないが、本種の托葉鞘は先端が葉状にならず縁毛がある。

ヒメボントクタデ *Persicaria* sp.

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 1、固有度階級 2。未記載の植物で、愛知県が分布の中心らしい。特別な環境の場所に生育しているわけではないが、それでいて生育地の少ない植物である。

【形態】

1年生草本。茎は直立して枝を分け、高さ 35-80cm になる。葉は長さ 3~15mm の柄があり、葉身は長楕円形、長さ 6~12cm、幅 1.5~3cm、両端はほぼ同形に細まり、先端は鋭尖頭、葉質はボントクタデに比べて薄く、両面に毛が多く、表面中央部に明瞭な黒斑がある。托葉鞘は筒状で、長さ 4~8mm、それとほぼ同じ長さか多少短い縁毛がある。花期は 8 月下旬~9 月、総状花序は長さ 4~10cm で先端はたれ、まばらに花をつける。がくは 5 裂し、淡紅色、長さ 1.5~2mm で、腺点がある。そう果は 3 稜形、黒褐色、長さ 2~2.5mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

下山（芹沢 83076）、豊田北西部（芹沢 82559）、岡崎南部（芹沢 82562）、瀬戸尾張旭（芹沢 82558）。

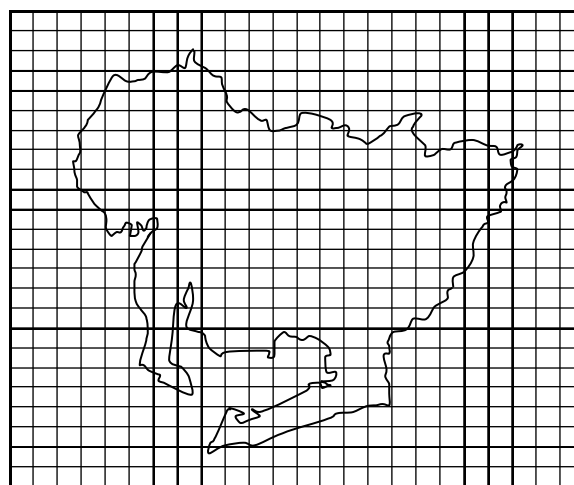
【国内の分布】

愛知県のほか、現在のところ岐阜県 2 カ所、京都府 1 カ所、宮崎県 2 カ所で生育が確認されている。

【世界の分布】

日本固有種？。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

沢沿いの林道わきの湿った場所、放棄された谷戸田の跡、沢すじの土砂の堆積した場所などに生育している。

| | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林 | | | | |
| 草・岩 | | | | |
| 湿地 | | ○ | ○ | |
| 水域 | | | | |

【現在の生育状況 / 減少の要因】

岡崎南部は小群落だが、他はそれなりの個体数が見られる。

【保全上の留意点】

注意して探索しているつもりだが、県内で確認できた自生地は 5 カ所に過ぎない。何が分布を規定しているのかよくわからない植物で、既知の生育地を保全する必要がある。1 年生草本なので小規模な工事等ならば神経質になる必要はなく、むしろ多少の攪乱は本種にとって好都合と思われる。

【特記事項】

本州~琉球に広く分布し、愛知県でも普通に見られるボントクタデ *P. pubescens* (Blume) H.Hara は、大まかに見れば本種とヤナギタデの中間形である。

マルバアカザ *Chenopodium acuminatum* Willd.

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 1。海浜の砂地を特徴づける植物の一つで、愛知県では減少傾向が著しい。

【形態】

1 年生草本。茎は直立するか斜上して分枝し、高さ 20～60cm になる。葉は互生し、有柄、葉身は長楕円形～広卵形、長さ 2.5～6cm、幅 1.8～4.5cm、先端は鈍頭～円頭、基部は鈍円形、辺縁は全縁で狭い膜質半透明部があり、やや厚くて裏面に粉状物がある。花期は 5～10 月、花は密集して細い穂状につき、花序の下部では枝を出す、それ以上は分かれぬ。種子は黒色で光沢があり、長さ 1.3～1.5mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊橋南部（芹沢 71228）、渥美（芹沢 79239）、東海知多（畑佐武司 378）、常滑（芹沢 76805）。田原赤羽根にもあるという（小林, 2002）。半田武豊（武豊町富貴海岸, 相羽福松 217, 1979-9-2）で採集された標本もある。

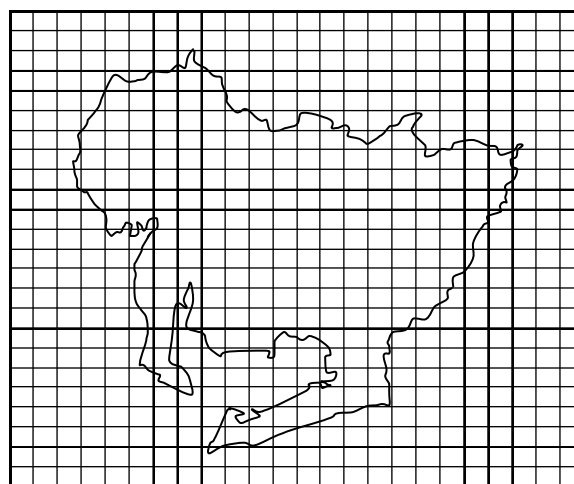
【国内の分布】

本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本のほか、中国大陸、モンゴル、シベリア、中央アジアなどに広く分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

海岸の砂地に生育する。1 年生草本で、やや不安定な場所に多く見られる。

| | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林 | | | | |
| 草・岩 | | | | ○ |
| 湿地 | | | | |
| 水域 | | | | |

【現在の生育状況 / 減少の要因】

点在するが、大きな群落はない。かつてはあちこちの海岸に生育していたものと思われるが、砂浜の減少に伴い、生育可能な場所自体がなくなりつつある。

【保全上の留意点】

自然海岸は、埋め立てや護岸などで急激に減少している。現在砂浜や塩湿地が残されている場所は注意して保全する必要がある。

【特記事項】

カワラアカザと近縁であり、種の階級ではそれと同一とする見解もある。海岸部に生育するシロザはしばしば葉が厚く、辺縁の欠刻が目立たなくなるが、それからは花穂の形態で区別できる。

【引用文献】

小林元男, 2002. 渥美半島の植物 p.106. 東三林業振興会, 豊川.

【関連文献】

保草Ⅱ p.292、平草Ⅱ p.47。

カワラアカザ *Chenopodium virgatum* Thunb.

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 1。砂地を特徴づける植物の一つで、愛知県では減少傾向が著しい。

【形態】

1 年生草本。茎は直立するか倒伏して分枝し、高さ 10～35cm になる。葉は互生し、有柄、葉身は茎の下部のものも広披針形～長卵形、鋭頭～鈍頭、辺縁は全縁で狭い膜質半透明部があり、上部のものはさらに細くなる。花期は 7～10 月、花は密集して細い穂状につき、花序の下部では枝を出す。それ以上は分かれぬ。種子は長さ 1.3～1.5mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊田東部（畑佐武司 2244）、尾西（芹沢 77723）、祖父江（芹沢 76362）、海部西部（芹沢 49730）。津具（芹沢 70574）でも採集されたことがあるが、おそらく土砂と共に移入されたものである。

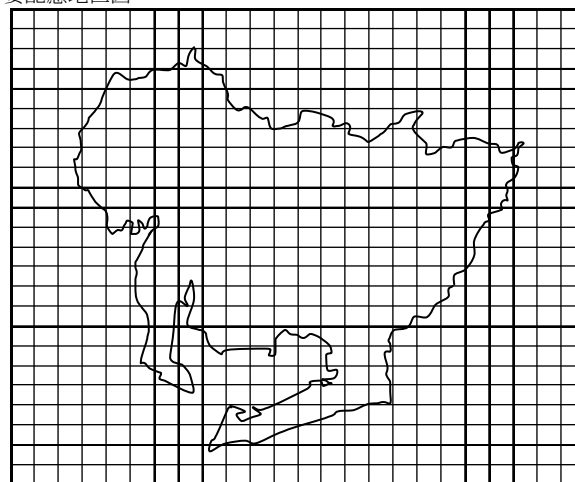
【国内の分布】

本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、モンゴル、ウズベキスタン。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

河川敷や海岸近くの砂地に生育する。1 年生草本で、やや不安定な場所に多く見られる。

| | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林 | | | | |
| 草・岩 | | | ○ | ○ |
| 湿地 | | | | |
| 水域 | | | | |

【現在の生育状況 / 減少の要因】

祖父江町の木曾川河川敷には比較的多いが、他の場所では少ない。観光開発やオフロード車の乗り入れ等により、本種が生育できるような場所は著しく減少している。次代に良好な自然を残すためには、現在の利用にある程度の制約が必要である。

【保全上の留意点】

砂地を、本来の状態のまま保全することが必要である。木曾川沿いの河岸砂丘は、地形的に見ても国内にほとんど例がないものであり、特に注意して保全する必要がある。

【特記事項】

マルバアカザに比べて葉が細く、薄く、先端がやや尖り、花序も細いが、差違はやや微妙なところがある。マルバアカザの亜種または変種とする見解もある。葉が更に細く、花序が細かく分枝するホソバアカザ *C. stenophyllum* (Makino) Koidz. も、葉の辺縁に狭い膜質半透明部を持つことが多い。

【関連文献】

保草Ⅱp.292、平草Ⅱp.47、SOS 新版 p.130,132。

イソハウキギ *Kochia littorea* (Makino) Makino

【選定理由】

個体数階級 1、集団数階級 2、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有度階級 2。大陸系の塩湿地性植物で、愛知県は分布域の東限に近い。

【形態】

1年生草本。茎は多くの開出した枝を分け、高さ 30~100cm になる。葉は互生し、狭倒披針形~倒披針形、長さ 1~5cm、幅 2~7mm、やや厚く、先端は鋭頭、基部は細まり、3 脈があり、全縁で両面に褐色の絹毛がある。花期は 9~10 月、花は葉腋に 1~3 個つき、両性花と雌花があり、枝全体で大きな円錐花序となる。種子は倒卵形で、長さ 1.3mm 程度である。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊橋南部 (小林 48836)、田原赤羽根 (小林 54077)、渥美 (芹沢 78194)。幡豆 (佐久島) からも報告されている (小林・深谷, 2008)。蒲郡 (西浦町, 鳥居喜一 14094, 1949-7-17, HNSM) で採集された標本もある。知多半島では現在のところ確認されていない。

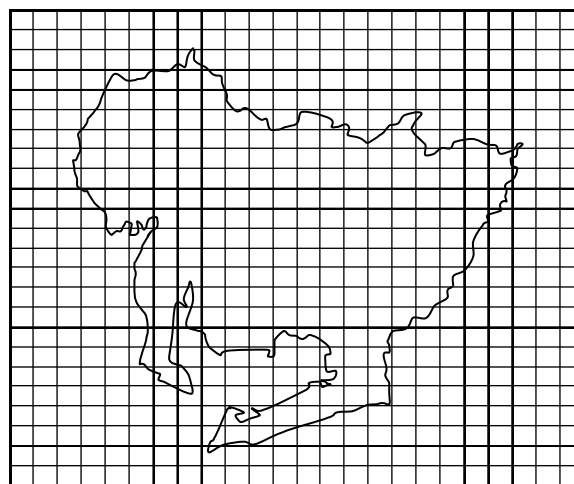
【国内の分布】

本州 (東海地方以西)、四国、九州に生育する。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸東部に分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

内湾の塩湿地や多少安定した砂浜に生育する。

| | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林 | | | | |
| 草・岩 | | | | ○ |
| 湿地 | | | | ○ |
| 水域 | | | | |

【現在の生育状況 / 減少の要因】

三河湾南岸に点在している。近年に限ればそれほど減少しているわけではないが、過去の内湾部の埋立によって大きな影響を受けたと思われる。現在生育している場所でも、開発や水の汚れがあれば容易に消滅する。佐久島では「砂利混じりの砂浜に少数株生育していた」と書かれているが生育は不安定らしく、2008 年の調査では確認できなかった。

【保全上の留意点】

内湾の塩湿地は、開発圧力が高く、全国的にも愛知県でも急激に減少している。現在残存している場所は、特に注意して保全する必要がある。生育地の直接的な改変を避けることはもちろんであるが、通常は河口にあるので、流入する河川の水質維持にも注意を払う必要がある。

【特記事項】

栽培されるハウキギに比べ、枝分かれが少なく、葉は幅広くてやや厚い。

【引用文献】

小林元男・深谷昭登司, 2008. 佐久島・三河湾島々の植物 p.80,231. 佐久島会, 刈谷.

【関連文献】

保草Ⅱp.290、平草Ⅱp.46、SOS 旧版 p.48+図版 32。

ハチジョウイノコヅチ *Achyranthes japonica* (Miq.) Nakai var. *hachijoensis* Honda

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 1。海浜性の植物。総点は 10 であるが、最近になって注目された植物であることを考慮し、準絶滅危惧と評価する。

【形態】

多年生草本。茎は高さ 20～90cm になる。葉は対生し、長さ 1～4cm の柄があり、葉身は楕円形～卵形、長さ 17cm、幅 10cm に達し、先端は鋭頭～やや鋭尖頭、基部は広くさび形、全縁でほとんど無毛、表面は深緑色でやや光沢がある。花期は 8～9 月、花序は穂状で枝の先端につき、長さ 4～12cm、密に花をつけるが、果実期には花序が伸びるためややまばらになる。小苞基部の付属体はやや大きい。

【分布の概要】

【県内の分布】

田原赤羽根（小林 74107）、幡豆（芹沢 82223）、知多南部（芹沢 82127）。三河湾にある篠島、日間賀島、佐久島には比較的多いが、それ以外では渥美半島の太平洋側で 1 回採集されただけである。

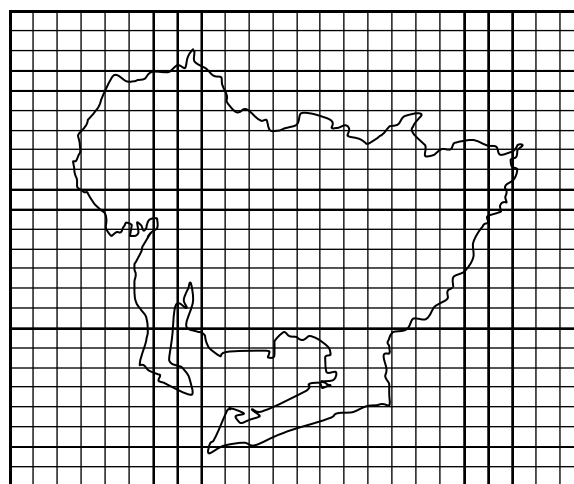
【国内の分布】

本州（中南部）、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本固有。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

海岸の半日陰の岩場や林内に生育する。

| | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林 | | | | ○ |
| 草・岩 | | | | ○ |
| 湿地 | | | | |
| 水域 | | | | |

【現在の生育状況 / 減少の要因】

三河湾の島には点在しており、生育状況も良好である。ただし、過度に攪乱された場所には生育しない。過去には更に多く生育していたが、観光開発等によって減少し、現在の状態になったと思われる。

【保全上の留意点】

三河湾の島は開発が進み、海岸部の地形はほとんど改変されている。現在残存している自然地形の海岸は確実に保全していく必要がある。

【特記事項】

レッドデータブックあいち 2001 植物編発行後に愛知県での生育が確認された植物である。花は他のイノコヅチ類より 1 ヶ月以上早く、8 月から咲き始める。

【関連文献】

保草Ⅱp.283、平草Ⅱp.55。

アズマイチゲ *Anemone raddeana* Regel

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 1。温帯性の、代表的な早春植物である。愛知県では生育地が少ない。

【形態】

多年生草本。根茎は横にはい、ところどころに紡錘形のふくらみがある。根出葉は2回3出複葉で、小葉は3出状に分裂する。花茎は高さ15~20cm、長軟毛があるが落ちやすく、茎葉は3枚が輪生し、柄があり、3出複葉で垂れ気味に開出し、小葉は鋸歯はあっても深く切れ込むことはない。茎や葉は全体に青白色を帯びる。花期は3~5月、花茎に2~3cmの花を1個頂生する。がく片は8~13枚で白色、裏面はやや紫色を帯びる。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊根(村松正雄 15047)、東栄(小林 41195)。

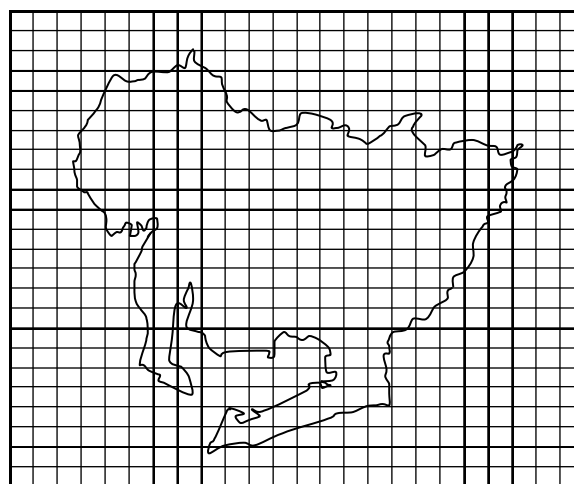
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

サハリン、日本、朝鮮半島、ウスリー。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

落葉広葉樹林の林内や林縁に生育する。春早く開花し、夏には地上部が消失する。

| | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林 | ○ | | | |
| 草・岩 | | | | |
| 湿地 | | | | |
| 水域 | | | | |

【現在の生育状況 / 減少の要因】

生育地は少ないが、その場所ではある程度の個体数が見られることが多い。しかし、二次林の利用停止に伴う林床植物の繁茂やスギ、ヒノキの造林により、開花個体は著しく減少している。道路沿いの群落の場合は、拡幅工事等により生育地が削られたり埋められたりするおそれがある。

【保全上の留意点】

造林地については、間伐などの手入れが必要である。開花期が早く少数回の調査では見落とされってしまうおそれがあるので、調査の際には注意を要する。園芸目的の採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

「イチゲ」は1花のことで、花が1本の茎に1個だけつくからである。

【関連文献】

保草Ⅱp.233、平草Ⅱp.69、SOS旧版 p.49。

ミスミソウ *Hepatica nobilis* Schreber var. *japonica* Nakai

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有度階級 1。愛知県では人為的な影響を受けやすい場所に生育しており、園芸目的の採取等により激減している。

【形態】

常緑性の多年生草本。細長く匍匐する根茎がある。根出葉は根茎の先に束生し、長い葉柄があり、やや3角形で基部は心形、幅3~6.5cm、3浅~深裂し、裂片は鋭頭である。花期は3~4月、高さ10~15cmの花茎の先端に、直径1~1.5cmの花を1個頂生する。花のすぐ下には、がくのように見える小さい茎葉が3枚輪生する。がく片は6~10枚、披針形~卵状披針形、色は変化が多く、白、淡青、淡紫、または淡紅色などのものがあるが、愛知県のものは白色である。

【分布の概要】

【県内の分布】

設楽東部（小林 33387）、新城（加藤等次 2687）、豊橋北部（芹沢 64706）、渥美（小林 50026）。

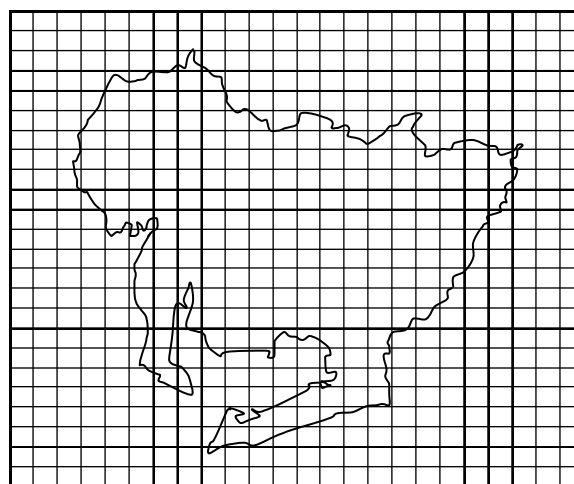
【国内の分布】

本州（中部地方以西）、九州北部に分布する。

【世界の分布】

変種としては日本固有とされている。種としてはヨーロッパと東アジアに隔離的に分布している。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

通常は落葉広葉樹林内に生育する。

| | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林 | ○ | | | |
| 草・岩 | | | | |
| 湿地 | | | | |
| 水域 | | | | |

【現在の生育状況 / 減少の要因】

点在するが、園芸目的の採取や林の伐採、遷移の進行等により、減少傾向が著しい。

【保全上の留意点】

園芸目的の採取やカメラマン、観察者の踏み荒らしを防止するため、常時監視できない場所では分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

園芸植物として栽培され、いろいろな園芸品種がある。次頁のスハマソウと共に、地理的な分化に関して詳細な検討が必要な植物である。ミスミソウもスハマソウも愛知県における評価は準絶滅危惧であるが、両者を比較すればミスミソウの方が危機的である。

【関連文献】

保草Ⅱp.230、平草Ⅱp.70、SOS旧版 p.50。

スハマソウ *Hepatica nobilis* Schreber var. *japonica* Nakai form. *variegata* (Makino) Kitam.

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有度階級 1。愛知県では人為的な影響を受けやすい場所に生育しており、減少傾向が著しい。

【形態】

ミスミソウによく似ているが、根出葉の裂片は先端が鈍頭、茎葉の裂片は先端が鈍頭～円頭となる。通常は品種の階級で区別される植物で、環境庁のレッドデータブックではミスミソウに含めて扱われているが、愛知県ではミスミソウが東三河、スハマソウが西三河、尾張と分布域が分かれているので、あえて区別しておく。

【分布の概要】

【県内の分布】

藤岡（芹沢 58006）、豊田北西部（畑佐武司 1580）、瀬戸尾張旭（日比野修 82）、名古屋北部（芹沢 51071）。豊田東部（西広瀬町，芹沢 58008, 1991-4-2）にもあったが、ここでは絶滅した。

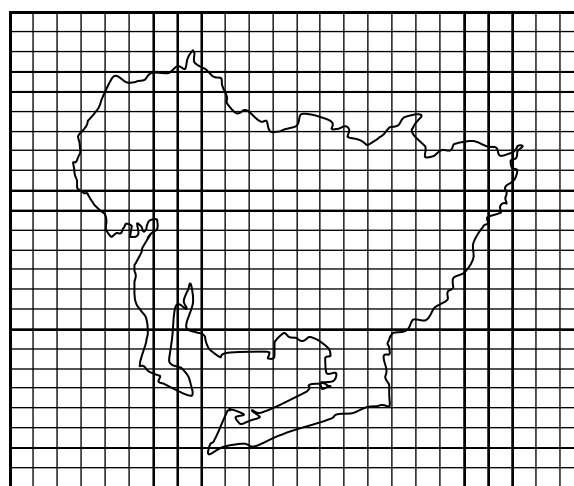
【国内の分布】

本州（山形県、宮城県以南）および四国。

【世界の分布】

日本固有とされている。種としてはヨーロッパと東アジアに隔離的に分布している。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

通常落葉広葉樹の二次林内に生育するが、造林地内に生育していることもある。

| | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林 | ○ | ○ | | |
| 草・岩 | | | | |
| 湿地 | | | | |
| 水域 | | | | |

【現在の生育状況 / 減少の要因】

分布域内では点在しているが、開発や園芸目的の採取、遷移の進行（特にネザサの繁茂）等により減少している。豊田東部では土石採取のため生育地が破壊された。瀬戸市では、工業団地造成に際して自生地を伐採し人工緑地にする計画があったが、保全の要請が受け入れられ難を免れた。

【保全上の留意点】

園芸目的の採取やカメラマン、観察者の踏み荒らしを防止するため、常時監視できない場所では分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

ミスミソウと共に、地理的な分化に関して詳細な検討が必要な植物である。

【関連文献】

保草Ⅱp.230、平草Ⅱp.70。

シギンカラマツ *Thalictrum actaeefolium* Sieb. et Zucc.

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 1。西日本系の植物で、愛知県では個体数が少ない。

【形態】

多年生草本。茎はまばらに分枝し、高さ 30~70cm になる。茎葉は数個つき、2~3 回 3 出複葉、小葉は卵形または卵円形、長さ 2~6cm、幅は長さより広く、基部は円形または心形、裏面は灰白色になる。花期は 7~10 月、花は大きな複合の散房花序につき、直径 1cm 程度、長さ 5~10mm の花柄があり、がく片は 4 個、広楕円形で長さ約 4mm、花期には脱落する。

【分布の概要】

【県内の分布】

東栄 (小林 38906)、稲武 (塚本威彦 2693)、豊橋北部 (芹沢 67015)、旭 (日比野修 2454)、足助 (塚本威彦 2124)。

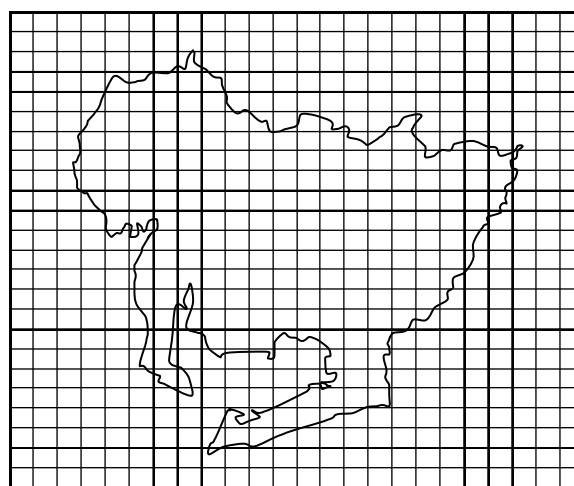
【国内の分布】

本州 (関東地方南部以西)、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

礫地などの林内や林縁に生育する。

| | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林 | ○ | | | |
| 草・岩 | | | | |
| 湿地 | | | | |
| 水域 | | | | |

【現在の生育状況 / 減少の要因】

点在するが、どの場所でも個体数は少ない。愛知県では主として二次林内や造林地に生育しており、二次林の利用停止に伴う林床植物の繁茂や造林地の手入れ不足による被陰のため、衰退傾向にある。その一方で、森林の伐採によって失われるおそれもある。

【保全上の留意点】

生育地の森林を、いわゆる里山状態で保全することが必要である。

【特記事項】

シギンカラマツはシキンカラマツに対する名で、紫錦の錦を「金」とよみかえ、それに対して花の白い本種を「銀」としたものである。

【関連文献】

保草Ⅱp.238、平草Ⅱp.85。

ヘビノボラス *Berberis sieboldii* Miq.

【選定理由】

個体数階級 1、集団数階級 1、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有度階級 3。本地域の湧水湿地を特徴づける準固有種である。

【形態】

小形の落葉性低木。茎は細く、直立して多少分枝し、高さ 80cm くらいになり、鋭い刺針がある。刺針は長さ 5~15mm で、多くは基部で 3 分枝する。葉は倒卵形または倒披針形、長さ 3~9cm、幅 1~2cm、先端は鋭頭またはやや鈍頭、辺縁には先が刺状になった細かい鋸歯がある。花期は 4~5 月、短枝の先から垂れ下がる総状花序を出し、数個の黄色の花をつける。花序はふつう葉よりも短い。果実は赤く熟し、球形~やや楕円形、長さ約 6mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

田原赤羽根（芹沢 55011）、渥美（芹沢 58203）、足助（日比野修 3804）、小原（日比野修 2684）、藤岡（日比野修 1460）、豊田東部（芹沢 75405）、豊田北西部（畑佐武司 1679）、岡崎南部（芹沢 69088）、幸田（芹沢 58194）、西尾（芹沢 54129）、瀬戸尾張旭（芹沢 80568）、犬山（芹沢 69241）、小牧（日比野修 4911）、春日井（山田果与乃 469）、名古屋北部（芹沢 51066）。作手（東田原、鳥居喜一 5808, 1982-5-27, HNSM）と豊橋南部（大清水、恒川敏雄 s.n.=鳥居 14608, 採集日不明, HNSM）で採集された標本もある。シデコブシと同じような分布をしており、豊橋北部では発見されておらず、知多半島にもない。作手はこのあたりという場所を教えてもらったが、確認できなかった。

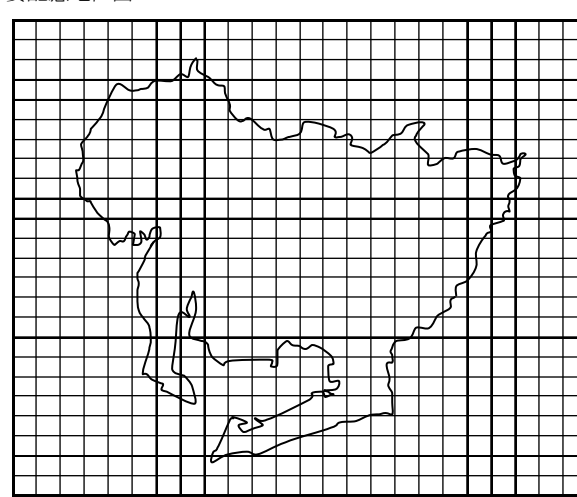
【国内の分布】

本州（東海地方西部、近畿地方）、九州（宮崎県）に分布する。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



| | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林 | | | | |
| 草・岩 | | | | |
| 湿地 | | ○ | | |
| 水域 | | | | |

【生育地の環境 / 生態的特性】

湧水湿地周辺の林縁や疎林内に生育する。

【現在の生育状況 / 減少の要因】

現在のところはまだ生育地も個体数も多いが、丘陵地に生育しているだけに開発の影響を受けやすく、次第に減少している。湿地周辺の森林化に伴う被陰によっても衰退している。

【保全上の留意点】

愛知県のやせた丘陵地に点在する湧水湿地は、この地域を特徴づける植物が集中して生育しており、絶滅危惧種も多く、優先して保全すべき場所である。湧水湿地の保全のためには、湿地本体だけでなく、湧水を涵養する水源部の地形をあわせて保全する必要がある。

【特記事項】

鋭い針があってヘビも登れないというので、ヘビノボラスという。しかし、時には刺針がほとんどないものもある。葉の裏は普通緑色であるが、帯白色のものもある。彩色画はレッドデータブックあいち 2001 植物編 図版 3 に掲載されている。

【関連文献】

保木 II p.174、平木 I p.129、SOS 旧版 p.51+図版 18。

イカリソウ *Epimedium grandiflorum* Morr.

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 2。愛知県では生育範囲が限られており、分布域の西限にあたる。なお、今回の準絶滅危惧という評価は、夏緑性で淡紫色～紅紫色の花をつける狭義のイカリソウだけが対象である。

【形態】

多年生草本。高さ 20～40cm になる。地下茎は丈夫でかたく、分枝して塊状になる。葉は 1～3 回 3 出複葉で、小葉は卵形、長さ 3～10cm、幅 2～6cm、先端はしだいに細くなり、鈍頭または鋭頭、基部は心形、辺縁には刺状の毛がある。花期は 4～5 月、花は総状または複総状花序につき、淡紫色～紅紫色で下を向いて咲く。がく片は 8 個、外側の 4 片は長楕円でやや小さく、早落性、内側の 4 片は卵状長楕円形で鈍頭、長さ 10～12mm である。花弁には長さ 15～20mm の距があり、そのため花は全体として船のいかり状に見える。

【分布の概要】

【県内の分布】

稲武（塚本威彦 2194）。確実に狭義のイカリソウと判断されるものは、他区画では確認されていない。隣接する岐阜県側では、やや普通に見られる。

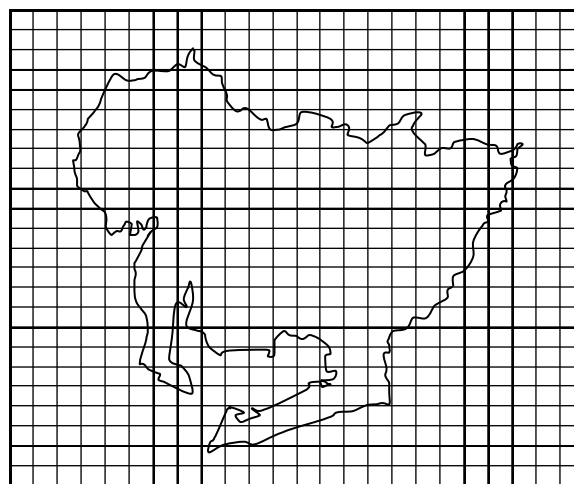
【国内の分布】

北海道西南部および本州（東海地方以北の主として太平洋側）に分布する。

【世界の分布】

種の範囲を狭くとれば日本固有である。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

落葉広葉樹の二次林内に生育する。スギ、ヒノキの造林地にも生育している。

| | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林 | ○ | | | |
| 草・岩 | | | | |
| 湿地 | | | | |
| 水域 | | | | |

【現在の生育状況 / 減少の要因】

県内では稲武だけに生育しているが、区画内ではところどころに見られる。造林地内のもは手入れ不足で林床の光条件が悪化し、あまり花をつけない状態になっている。

【保全上の留意点】

生育地の森林を、いわゆる里山状態で維持することが必要である。造林地の場合は、間伐等の適切な管理を行う必要がある。

【特記事項】

イカリソウ属は日本列島で多様に分化しており、愛知県はいろいろな型の接点になっている。三河山地には淡黄色の花をつけるキバナイカリソウ（ほとんど白色のものもあるが、これもキバナイカリソウの範囲内として扱うことにする）が多いが、これはここで言うイカリソウには含まれていない。

【関連文献】

保草Ⅱp.202、平草Ⅱp.90。

ミズタガラシ *Cardamine lyrata* Bunge

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 2。本地域を特徴づける低湿地性植物である。

【形態】

多年生草本。茎ははじめ直立し、高さ 30~60cm になるが、花後には倒れる。茎の基部から長い匍匐枝を出し、その匍匐枝には卵円形で基部が浅い心形の葉がつく。直立茎につく葉は短い柄があり、葉身は羽状複葉で長さ 2~7cm、頂小葉は大きく広卵形、側小葉は小さく卵形で 2~7 対ある。花期は 4~6 月、茎の先端に総状花序を伸ばし、10~30 個の白色の花をつける。花弁は 4 枚で広倒卵形、長さ 5~8mm である。果実は線形で、長さ 2~3cm になる。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊川宝飯（永田芳男 s.n.）、幸田（小林 61123）、犬山（芹沢 58330）、小牧（日比野修 4451）、春日井（秋山葉子 69）、岩倉西春（鈴木幸子 630）、名古屋北部（芹沢 81340）、一宮木曾川（芹沢 58317）、尾西（芹沢 61375）、祖父江（渡辺幸子 2114）、海部西部（芹沢 73543）。

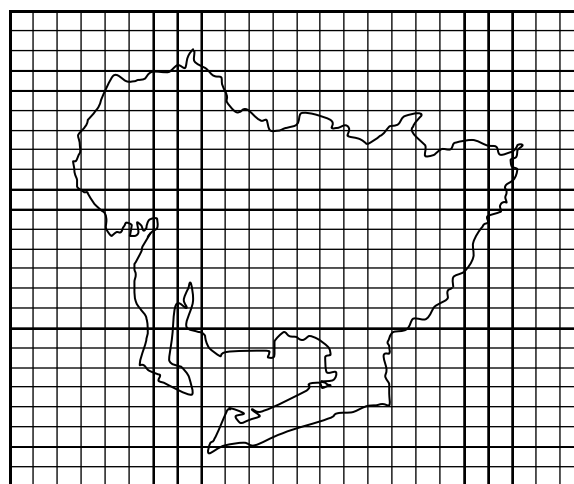
【国内の分布】

本州（関東地方以西）、四国、九州に生育するとされているが、一般にあまりよく理解されていない植物で、東海地方以外での現状は今ひとつはっきりしない。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、モンゴル、シベリア東部などに広く分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

河川敷などの低湿地に生育するほか、休耕田や水田わきの水路などに生育することもある。

| | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林 | | | | |
| 草・岩 | | | | |
| 湿地 | | | ○ | |
| 水域 | | | | |

【現在の生育状況 / 減少の要因】

どこでも見られるというわけではないが、ある場所では一般によく生育している。しかし低湿地性の植物であるため、耕地整理、宅地化、水の汚染などの影響を受けやすく、その点で将来の存続が懸念される。帰化植物であるオランダガラシの増加によって圧迫されている場所もある。

【保全上の留意点】

平野部の湿地や未整理耕地は、そこを利用している、あるいは近傍に住む人に不利益をもたらすため、行政としては今までなるべく消失させるよう努力してきた。しかしここまで少なくなってしまうと、今後は旧来の農村景観という文化財的な意味を含めて、保全を図る必要がある。名古屋北部の守山区才井戸流れは、流水中に本種の群落が点在しており、特に保全が必要である。

【特記事項】

「日本の野生植物」Ⅱ 127 図版に本種として掲載されている写真は、タネツケバナである。写真小図鑑類に掲載されている写真も、ほとんどが誤りである。「原色日本植物図鑑」草本編Ⅱ 41 図版の図では、本種の特徴がよく示されている。

【関連文献】

保草Ⅱp.175、平草Ⅱp.131、SOS 旧版 p.55。

ミツバベンケイソウ *Hylotelephium verticillatum* (L.) H.Ohba

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 1。愛知県では個体数の少ない多肉植物である。

【形態】

多年生草本。茎は直立し、高さ 20～80cm になる。葉はふつつ 3 輪生、小形の株では対生することもあり、長さ 2～10mm の柄があり、葉身は楕円形～広披針形で長さ 3～10cm、幅 1.5～3cm、先端は鋭頭、辺縁にはまばらな鋸歯があり、乾けば細脈が透けて見え、褐色の小点がある。花期は 8～9 月、茎の先端に大型の複散房状花序をつけ、密に黄緑白色の花をつける。花弁は 5 枚で広披針形、長さ約 4mm、裂開直前の葯は淡黄色、まれに暗褐色である。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊根（加藤等次 2881）、設楽東部（小林 60412）、豊橋北部（小林 54757）、知多南部（小林 55431）。東栄（小林, 2006）、鳳来（区画不明、小林, 2000）にもあるという。

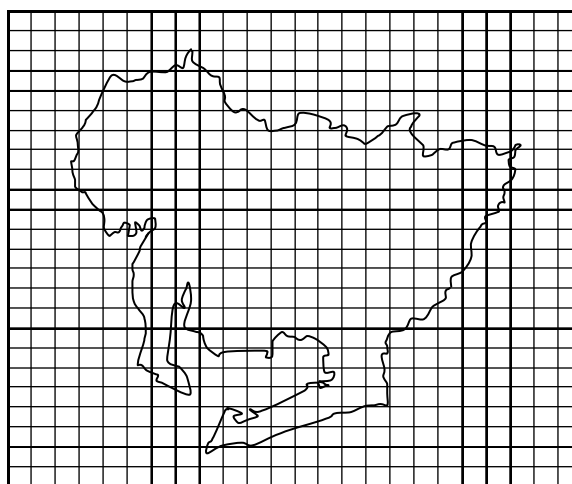
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

カムチャッカ、千島列島、日本、朝鮮半島、中国大陸、シベリア北部など。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

半日陰の岩場に生育する。

| | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林 | ○ | | | |
| 草・岩 | ○ | | | |
| 湿地 | | | | |
| 水域 | | | | |

【現在の生育状況 / 減少の要因】

東三河では、個体数は少ないが、点在している。東三河以外では知多南部に見られるだけである。知多南部ではごく少数の個体が生育しているだけで、生育状態もよくない。

【保全上の留意点】

県全体では準絶滅危惧であるが、知多南部の自生地は特に保全の必要性が高い。

【特記事項】

ベンケイソウ類の 1 種であるが、鑑賞価値は比較的少ない。

【引用文献】

小林元男, 2000. 新城地方の植物 p.98. 愛知県, 名古屋.
小林元男, 2006. 北設楽の植物 p.146. 愛知県林業試験研究推進協議会, 新城.

【関連文献】

保草Ⅱp.、平草Ⅱp.150.

ツメレンゲ *Orostachys japonicus* (Maxim.) Berger

【選定理由】

個体数階級 1、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有度階級 2。岩崖地を特徴づける植物で、著しい園芸目的の採取圧がある。

【形態】

1 回開花性の多年生草本。根茎はない。葉は密生し、夏には直径 12cm に達するロゼットをつくり、ロゼット葉は多肉質で披針形、長さ 2.5~6cm、幅 5~15mm、緑色または白色を帯びた緑色、先端は鋭頭で短針がある。冬のロゼットの葉は夏のものより小さく、先は硬くなり針状にとがる。花期は 10~11 月、ロゼット中央の軸の上方に円錐状の高さ 8~30cm の花序をのぼし、密に白色の花をつける。花卉は 5 枚で披針形、長さ 5~6mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

富山（小林 48866）、豊根（村松正雄 14340）、東栄（小林 83509）、鳳来北東部（小林 40117）、鳳来南部（小林 65436）、犬山（小林 49026）、名古屋北部（村松正雄 17403）。名古屋北部では、真の自生ではないかもしれないが、名古屋城の石垣に大きな群落がある。名古屋城のものを移入と見なし除外すれば個体数階級が 2 になり、愛知県での評価は絶滅危惧Ⅱ類になる。

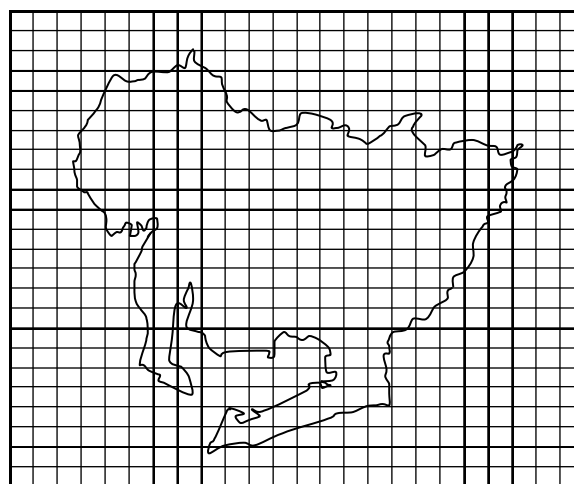
【国内の分布】

本州（関東地方以西）、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸東北部。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

日当たりのよい岩上に生育する。

| | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林 | | | | |
| 草・岩 | ○ | | ○ | |
| 湿地 | | | | |
| 水域 | | | | |

【現在の生育状況 / 減少の要因】

昔から園芸植物として珍重され、集中的に採取されるため、手が届く範囲にはほとんど見られなくなっている。東三河では、園芸業者が岩ごと運び出しているという。

【保全上の留意点】

園芸目的の採取を防止するため、常時監視できない場所では、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

和名は、細く尖った葉が動物の爪に似ているからである。

【関連文献】

保草Ⅱp.、平草Ⅱp.149、SOS 旧版 p.55、SOS 新版 p.43,45。

キバナハナネコノメ *Chrysosplenium album* Maxim. var. *flavum* H.Hara

【選定理由】

個体数階級 1、集団数階級 1、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 4。本地域に固有の植物である。

【形態】

小型の多年生草本で、高さ 5~10cm になる。地上性の走出枝があり、走出枝は花後に成長し、白軟毛を密生する。根出葉は花時に枯れる。茎葉は扇状円形~円腎形で長さ 2~10mm、幅 3~16mm、基部は鈍形またはくさび形、上縁には 5~9 個の半円状の鋸歯がある。花期は 4~5 月、集散花序を頂生し、直径 3~5mm の花を少数つける。がく裂片は 4 枚、黄色で花弁状、長卵形で長さ 3~5mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

富山 (小林 36159)、津具 (小林 36130)、稲武 (小林 36245)、設楽西部 (石川 静雄 122)、設楽東部 (小林 50760)、鳳来北西部 (小林 41622)、旭 (芹沢 72759)。豊根と東栄にもあるという (小林, 2006)。

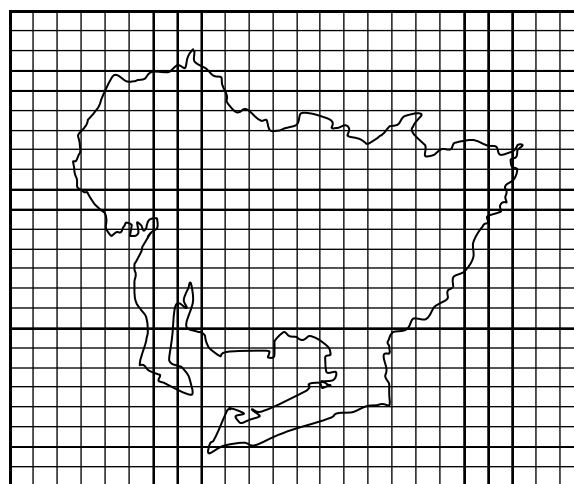
【国内の分布】

本州。東海地方 (静岡県、愛知県、岐阜県) だけに分布する。

【世界の分布】

種としても日本固有で、西南日本に分布し、いくつかの地理的変種に分化している。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の沢沿いの岩上に生育する。

| | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林 | ○ | | | |
| 草・岩 | | | | |
| 湿地 | | | | |
| 水域 | | | | |

【現在の生育状況 / 減少の要因】

愛知県での分布は、東三河とそれに接した西三河の一部に限られているが、その範囲内では少ないものではなく、まだあちこちの沢で見ることができる。しかし、森林の伐採や林道建設等に伴う沢すじの荒廃により、全体として減少傾向にある。

【保全上の留意点】

すぐに絶滅が危惧される状態ではないが、貴重な植物であることを認識する必要がある。

【特記事項】

ネコノメソウ属の中では、小型であるが花の目立つ植物である。

【引用文献】

小林元男, 2006. 北設楽の植物 p.50, 147. 愛知県林業試験研究推進協議会, 新城.

【関連文献】

保草Ⅱp.143、平草Ⅱp.160、SOS 新版 p.22,24.

タコノアシ *Penthorum chinense* Pursh

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 2。全国的に減少傾向の著しい、低湿地性の植物である。

【形態】

多年生草本。茎の基部は地中にあり、数個の走出枝を出す。地上部は直立し、ほとんど分枝せず、高さ30～80cm、無毛でしばしば淡紅色を帯びる。葉は狭披針形～披針形、長さ6～11cm、幅5～12mm、草質、両端は長い鋭尖形となり、辺縁には細鋸歯がある。花期は8～10月、茎の先に長さ4～12cmの枝を数個出し、多数の小さい淡黄白色の花を片側だけに総状につける。花弁はない。果実は直径6～7mmである。

【分布の概要】

【県内の分布】

富山(小林 52799)、豊根(小林 53113)、豊橋北部(芹沢 81131)、豊田東部(畑佐武司 102)、豊田北西部(畑佐武司 2544)、豊田南西部(畑佐武司 103)、安城(堀田喜久 4514)、西尾(芹沢 68774)、海部西部(芹沢 76387)。岡崎北部(東牧内町, 大原準之助 s.n., 1979-9-30)で採集された標本もある。

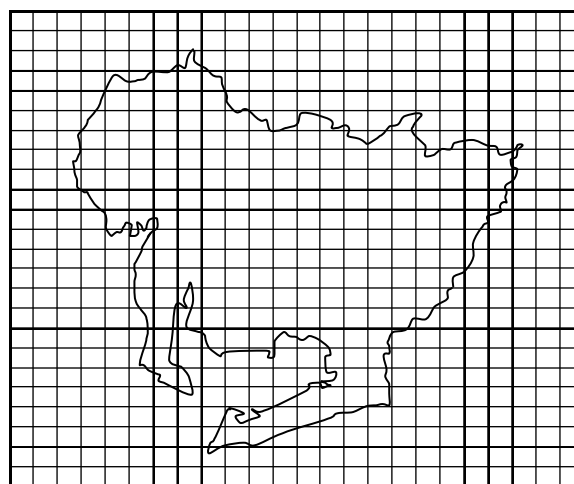
【国内の分布】

本州、四国、九州、琉球(奄美大島)に生育する。

【世界の分布】

東アジアに広く分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

河川敷や池沼の周辺などの低湿地に生育する。

| | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林 | | | | |
| 草・岩 | | | | |
| 湿地 | | | ○ | |
| 水域 | | | | |

【現在の生育状況 / 減少の要因】

愛知県では矢作川と木曾川の河川敷に比較的多く、生育状況も良好である。しかし一部の場所では、開発により生育地が失われている。特に木曾川左岸では、河川敷の改修と開発の結果、ほとんど見られなくなった。天竜川は、本来なら愛知県内では本種が生育できるような場所はなかったはずで、現在見られるのは佐久間ダム建設の結果できた二次的な地形の場所である。ただしこの場所は最近シカによる食害が著しく、すでに絶滅した可能性もある。

【保全上の留意点】

河川敷のヤナギ林やヨシ原は、平野部の本来の自然の姿を残す重要な場所で、本種以外にも多くの絶滅危惧種が生育している。特に注意して保全する必要がある。

【特記事項】

タコが逆立ちしたような変わった形の花序をつける植物で、和名もそれによる。花のない時にはややセイタカアワダチソウに似ており、調査時には注意を要する。

【関連文献】

保草Ⅱp.158、平草Ⅱp.155、SOS旧版p.56+図版26、環境庁p.473、SOS新版p.135,137。

バイカアマチャ *Platycrater arguta* Sieb. et Zucc.

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 2。日本と中国に分布する 1 属 1 種の植物で、日本では西日本に分布しており、愛知県は分布域の東限に近い。

【形態】

落葉性の低木。茎は下部から分枝し、高さ 1~2m になる。葉は対生し、長さ 1~2.5cm の柄があり、葉身は長楕円形または狭長楕円形、先は長鋭尖頭、基部はくさび型、枝の上部のものほど大きくなり、最上部のもので長さ 10~22cm、幅 3~6cm、辺縁には鋭い鋸歯があり、両面に伏毛がある。花期は 7~8 月、今年枝の先端に直径 5~10cm の集散花序をつける。装飾花は楕状につき、円形で直径 10~30mm、果期まで残存する。通常花は白色で直径 16~22mm、花弁は 4 枚で卵形、長さ 8~10mm、花後に脱落する。

【分布の概要】

【県内の分布】

富山 (小林 46767)、豊根 (加藤等次 3233)、津具 (小林 47794)、東栄 (芹沢 79343)、鳳来北東部 (小林 33132)。県内の分布域は、ほとんど天竜川水系に限られている。

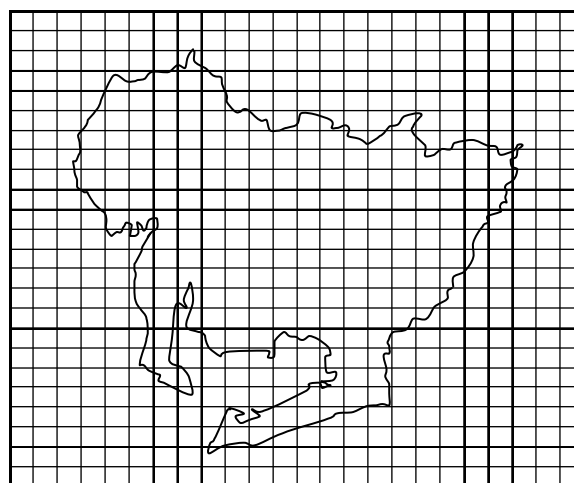
【国内の分布】

本州 (静岡県、愛知県、紀伊半島および中国地方)、四国、九州。

【世界の分布】

基準変種は日本固有。他の変種が中国大陸にある。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地林下のやや湿った斜面や崖状地などに生育する。

| | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林 | ○ | | | |
| 草・岩 | ○ | | | |
| 湿地 | | | | |
| 水域 | | | | |

【現在の生育状況 / 減少の要因】

天竜川流域には比較的多いが、豊川流域では鳳来町に 2 カ所自生地があるにすぎない。そのうち 1 カ所は、大島ダムの建設により大部分が水没した。

【保全上の留意点】

道路沿いに生育しているものについては、拡幅などの際に注意を要する。

【特記事項】

和名は、葉がアマチャに似ており、花が梅のようだからである。

【関連文献】

保木 II p.111、平木 I p.164。

ナメラダイモンジソウ *Saxifraga fortunei* Hook.f. var. *suwoensis* Nakai

【選定理由】

個体数階級 1、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 3。西日本系の植物で、愛知県は分布域の東限にあたる。岩崖地性の植物で生育環境が限定されており、園芸目的の採取で減少している。

【形態】

多年生草本。高さ 5~40cm になる。葉は根茎の先端に束生し、長さ 3~20cm の葉柄があり、葉身は腎円形で基部は心形、長さ 3~15cm、幅 4~20cm、掌状に 5~7 中裂し、裂片はふつう倒卵形である。花期は 10~11 月、花茎の先の集散花序に、白色の花をつける。花弁は上側の 3 個は楕円形で小さく、長さ 3~4mm、下の 2 個は線状楕円形で、長さ 6~15mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

稲武 (塚本威彦 2583)、旭 (芹沢 64297)、足助 (塚本威彦 1817)、小原 (日比野修 3816)、藤岡 (塚本威彦 1814)、瀬戸尾張旭 (日比野修 945)、犬山 (芹沢 73419)。

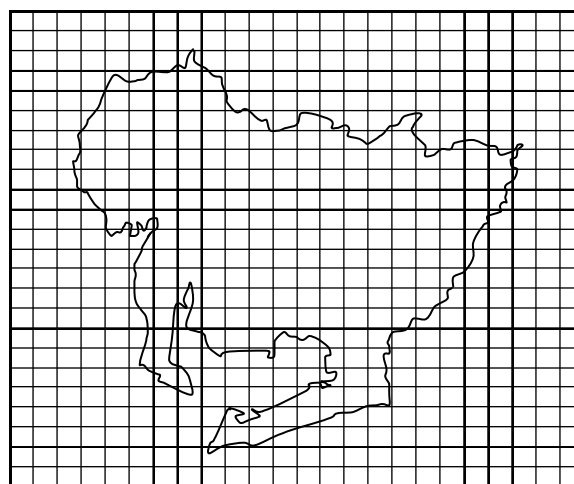
【国内の分布】

本州 (中部地方以西)、九州に分布する。

【世界の分布】

日本固有。種としては日本、朝鮮半島、中国大陆、ウスリーなどに分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

川岸などの湿った岩壁に生育し、通常群生する。

| | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林 | | | | |
| 草・岩 | ○ | | | |
| 湿地 | | | | |
| 水域 | | | | |

【現在の生育状況 / 減少の要因】

人目につかない場所ではよく生育しているが、園芸目的の採取で荒らされ、ほとんど絶滅状態になってしまった場所もある。

【保全上の留意点】

園芸目的の採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。一部の群落は東海豪雨時の増水により大きな被害を受けたが、これは自然変動の範囲内であり、放置しておいてもそのうちに回復すると思われる。

【特記事項】

「ダイモンジソウ」の名は、5 枚の花弁のうち下側の 2 枚が長く、花が全体として「大」の字に見えるからである。以前は誤ってカエデダイモンジソウと呼ばれていた。

【関連文献】

保草Ⅱp.155 (カエデダイモンジソウとして)、平草Ⅱp.172、SOS 旧版 p.57+図版 29。

カワラサイコ *Potentilla chinensis* Ser.

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 2。不安定な礫の河原を代表する植物で、生育できる環境が減少している。

【形態】

多年生草本。茎は根ざわで分枝して四方に広がり、先端は斜上し、長さ 30~70cm になる。葉は互生し、奇数羽状複葉、小葉は 15~29 個で倒披針形、長さ 2~5cm、中肋近くまで羽状に深裂し、裂片は狭くてとがり、裏面は綿毛があって白色になる。花期は 6~8 月、茎の先に分枝した花序をつけ、直径 10~15mm の黄色の花を咲かせる。花弁は 5 枚で倒卵形、そう果は卵形で、長さ約 1.3mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

江南丹羽(鶴岡佐知子 s.n.)、名古屋北部(芹沢 77891)、一宮木曾川(芹沢 71758)、祖父江(渡辺幸子 2272)、海部西部(芹沢 55829)。庄内川と木曾川の河川敷に生育しており、木曾川の一部には大きな群落がある。東三河、西三河では現在のところ生育地が知られていない。日進長久手(奥村・半田 4858)でも採集されたことがあるが、おそらく土砂と共に移入されたものである。

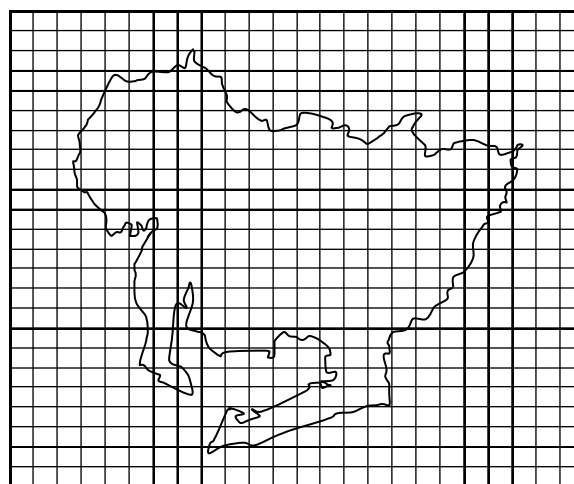
【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、モンゴル、アムール、ウスリー。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

河川敷の礫地に多い。海岸近くの砂地などに生育することもある。

| | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林 | | | | |
| 草・岩 | | | ○ | |
| 湿地 | | | | |
| 水域 | | | | |

【現在の生育状況 / 減少の要因】

出水の減少による河川敷の安定化と富栄養化によって、中流部の河川敷にも高茎草本が侵入するようになり、本種が好む半裸地状の礫の河原自体が減少している。特に庄内川では、河川の規模が小さいために礫地の減少傾向が著しく、ここ数年は存在が確認できない状態が続いている。

【保全上の留意点】

礫の河原を、適度に不安定な状態で保全することが必要である。

【特記事項】

「サイコ」の名は、本種のしっかりした地下部が薬用のミシマサイコの根に似ているからである。

【関連文献】

保草本Ⅱ p.134、平草本Ⅱ p.180、SOS 旧版 p.58+図版 28、SOS 新版 p.131,133。

ミヤマザクラ *Prunus maximowiczii* Rupr.

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 1。温帯性の樹木で、愛知県では個体数が少なく、また開発や被陰のため減少傾向にある。

【形態】

落葉性の高木。高さ 10m、直径 40cm になる。樹皮は紫褐色で、横に長い皮目が目立ち、若い枝には毛が多い。葉は互生し、倒卵状楕円形、先端は尾状鋭尖頭、基部は広いくさび形または切形で 1 対の蜜腺があり、長さ 4~7cm、幅 2.8~4.5cm、辺縁には鋭い重鋸歯があり、両面とも毛があり、裏面は淡緑色となる。花期は 5~6 月上旬、葉よりも遅れて側枝に短い総状花序または散房状花序を出し、4~10 個の花をつける。花は白色で直径 1.5~2cm、花弁は 5 枚で先端は円形である。果実は球形で直径約 8mm、紅紫色~黒紫色に熟す。

【分布の概要】

【県内の分布】

富山（芹沢 82109）、豊根（芹沢 81924）。津具にもあるという（小林, 2006）。

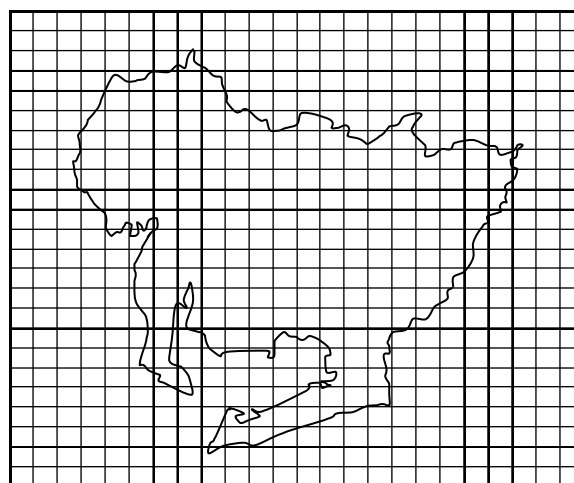
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州の温帯~亜寒帯域に生育する。

【世界の分布】

サハリン、日本、朝鮮半島、中国大陸東北部、ウスリー。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の疎林や二次林の構成種で、林縁に生育することが多い。

| | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林 | ○ | | | |
| 草・岩 | | | | |
| 湿地 | | | | |
| 水域 | | | | |

【現在の生育状況 / 減少の要因】

県内では北東端の山地だけに生育している。ある程度の個体数はあるが、生育地の一部は観光開発により失われている。その一方で、薪炭林の利用停止によって遷移が進行すれば、被陰により衰退するおそれもある。

【保全上の留意点】

陽性の樹木であるため、極相林内では生育できない。地形の改変を伴わない伐採は、本種の個体群維持にはむしろ好都合である。

【特記事項】

狭義のサクラ類と異なり、花序が短い総状となる。

【引用文献】

小林元男, 2006. 北設楽の植物 p.152. 愛知県林業試験研究推進協議会, 新城.

【関連文献】

保木本Ⅱ p.16、平木本Ⅰ p.192。

バクチノキ *Prunus zippeliana* Miq.

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 1。暖地性の樹木で、愛知県では点在するが、成木は少ない。

【形態】

常緑性の高木。高さ 15m、直径 1m に達する。樹皮は灰黒色または灰褐色で、外皮が鱗状にはげ、その跡は赤褐色になる。葉は互生し、長楕円形、先端は鋭尖頭または鋭頭、基部はくさび形または鈍形で 1 対の密腺があり、長さ 8~14cm、革質、辺縁は裏面に反り返って鋭い細鋸歯があり、裏面は淡緑色、表裏ともに無毛である。花期は 9 月、葉腋から短い総状花序を出す。花は白色、花弁は 5 枚で円形、果実は翌年の初夏に熟し、長楕円形で長さ 15mm 程度、紅紫色から黒紫色になる。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊橋北部（芹沢 43548）、田原赤羽根（小林 50044）、知多南部（芹沢 82779）。渥美（川尻川，小林 23386, 1981-11-15）、西尾（上永良町，大原準之助 1364, 1951-11-18）で採集された標本もある。ただし、西尾は植栽品の可能性が高い。

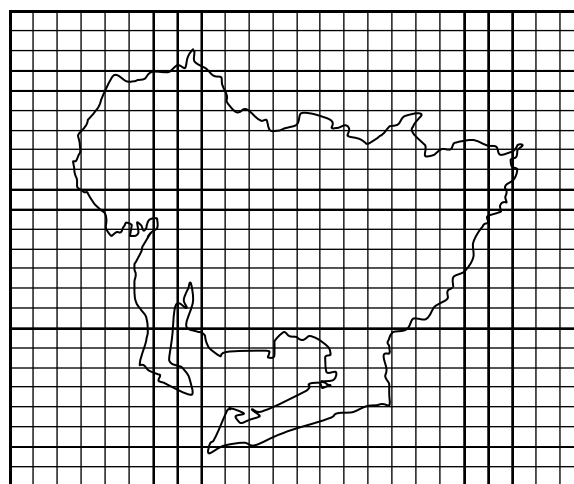
【国内の分布】

本州（関東地方以西）、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本および済州島。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の常緑広葉樹林に生ずる。石灰岩地に多い傾向がある。

| | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林 | ○ | | | |
| 草・岩 | | | | |
| 湿地 | | | | |
| 水域 | | | | |

【現在の生育状況 / 減少の要因】

豊橋北部では幼木は多く、場所によっては林床の優占種となっているほどであるが、開花結実する個体は少ない。石灰岩の採掘により、生育地の一部は失われた。

【保全上の留意点】

豊橋北部に点在する石灰岩地は、規模は小さいが、注目すべき植物が多く生育している。石巻山は国指定天然記念物として保護されているが、それ以外の場所も注意して保全する必要がある。

【特記事項】

バクチノキの名は、樹皮がはがれる様子が、博打に負けて身ぐるみはがれるようだからである。

【関連文献】

保木本Ⅱ p.18、平木本Ⅰ p.190。

ミソナオシ *Desmodium caudatum* (Thunb.) DC.

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 2、人為圧階級 2、固有度階級 1。暖地性の植物で、愛知県では個体数が少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

草本状の小低木。よく分枝して高さ 30～90cm になる。若い枝は緑色、葉は互生し、3 出葉、葉柄は長さ 1～4cm で、狭い翼がある。頂小葉は側小葉よりやや大きく、狭長卵形で鋭頭、長さ 4～12cm、幅 1～3cm、表面は光沢があり、裏面は白色を帯び、脈が目立つ。花期は 8～10 月、枝の先端や葉腋に穂状花序をつけ、花は黄色を帯びた白色、長さ約 7mm である。果実は 4～8 小節果からなり、扁平な線形で、長さ 5～8.5cm、下向きに湾曲し、小節果は楕円形、若時は幅広く接着するが熟すとばらばらになり、密にさび色の短いかぎ毛に被われ、動物に付着する。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊川宝飯（小林 47785）、豊橋北部（芹沢 56346）、田原赤羽根（小林 40467）、豊田北西部（村松正雄 20329）。渥美にもあるという（小林, 2002）。新城（富岡大原, 鳥居喜一 7042, 1978-6-18, HNSM）で採集された標本もある。東三河以外では極めて稀である。

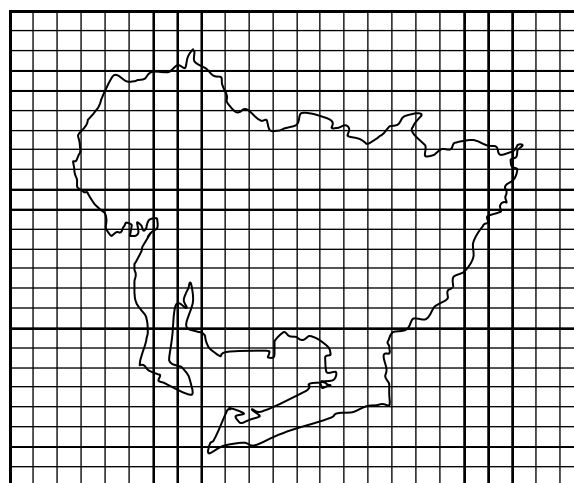
【国内の分布】

本州（関東地方以西）、四国、九州、琉球に生育する。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、台湾、中国大陸、インドシナ、ビルマ、インド、ヒマラヤ西部に分布し、またセイロン、マレー半島、スマトラ、ジャワなどに隔離分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

丘陵地や低山地の林縁に生育する。しばしば河川敷の林などにも見られる。

| | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林 | ○ | ○ | | |
| 草・岩 | | | | |
| 湿地 | | | | |
| 水域 | | | | |

【現在の生育状況 / 減少の要因】

点在するが、大きい群落はない。

【保全上の留意点】

林道わきなどに生育しているものは、拡幅等で失われるおそれがあり、工事の際には注意が必要である。

【特記事項】

和名は、味噌が悪くなったときにこの草を入れると味が回復するからである。

【引用文献】

小林元男, 2002. 渥美半島の植物 p.47, 117. 東三林業振興会, 豊橋.

【関連文献】

保草本Ⅱ p.101、平草本Ⅱ p.202.

オオバクサフジ *Vicia pseudo-orobus* Fisch. et Mey.

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 1。温帯性の植物で、愛知県では個体数が少ない。

【形態】

つる性の多年生草本。茎は稜があってほとんど無毛、長さ 80~150cm になる。葉は互生し、偶数羽状複葉で長さ 7~20cm、先端は分枝する巻きひげとなる。小葉は互生し、4~10 枚、卵形、長さ 3~5cm、幅 1.5~3cm である。花期は 8~10 月、葉腋に長さ 4~7cm の総状花序をつける。花は花序の一方に偏ってつき、青紫色、長さ 13~15mm の蝶形花、小花柄は細く、長さ 4~5mm である。豆果は短柄があり、狭長楕円形、長さ 2.5~3cm、幅 6~7mm、無毛である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東栄（水野岸子 590）、稲武（塚本威彦 2527）、設楽西部（小林 39260）、新城（小林 62182）。豊川宝飯（豊川旧市域）にもあるという（小林, 2004）。東海知多（加木屋町、岡島錦也 520267, 1986-7-24）と常滑（矢田、芹沢 76907, 2000-8-30）にもあったが、東海知多は現状不明、常滑は絶滅した。瀬戸尾張旭（定光寺山、沢井輝男 s.n., 1933-6-25）、犬山（善師野、岡田善敏 s.n., 1947-10-4）、春日井（玉野町、岡田善敏 s.n., 1948-8-21）で採集された標本もある。西三河では現在のところ確認されていない。

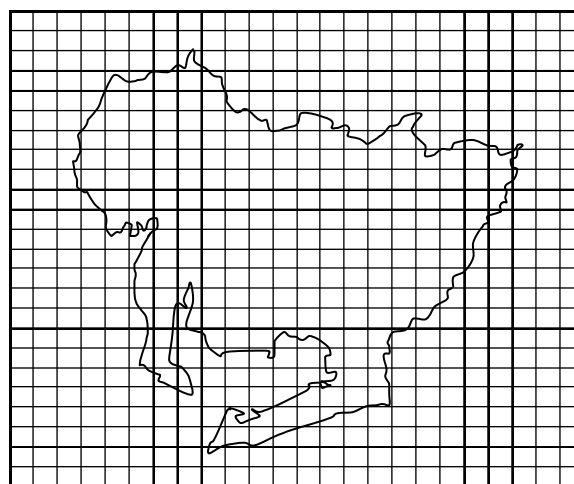
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州に生育する。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、ウスリー、アムール、シベリア東部に分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地や丘陵地の草地や林縁に生育する。

| | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林 | | | | |
| 草・岩 | ○ | ○ | | |
| 湿地 | | | | |
| 水域 | | | | |

【現在の生育状況 / 減少の要因】

点在しているが、どの場所も個体数は少ない。やや攪乱された場所にも生育しており、思わぬ時に行き当たることがある反面、いつの間にか消滅してしまうこともある。常滑では、愛知用水わきの草地に少数株が生育していたが、開花を確認できないうちに改修工事により消滅した。

【保全上の留意点】

散発的に出現する植物なので、効果的な保全対策は立てにくい。山間部の自然環境を、全体として保全することが必要である。また、愛知用水などの幹線水路わきの草地は、多くの草地性植物の逃避場所になっている。改修工事の際には、十分な配慮が必要である。

【特記事項】

ややまばらにつく大形の小葉が特徴で、和名もこれに基づく。

【引用文献】

小林元男, 2004. 宝飯の植物 p.43, 130. 東三河農林水産事務所, 豊橋.

【関連文献】

保草本Ⅱ p.108、平草本Ⅱ p.197。

コミヤマカタバミ *Oxalis acetosella* L.

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 1。自然度の高い山地林内に生育する植物で、愛知県では生育地が少ない。

【形態】

小型の多年生草本。根茎は細く、長くはう。葉は根茎の先端に1～数个束生し、葉柄は長さ3～10cm、葉身はほぼ同形の3小葉からなり、小葉は倒心形、幅1～3cm、上縁の両側は円形である。花期は7～8月、花茎は根生し、葉よりも高く5～15cmとなり、先端に1個の花をつける。花は白色、直径2～3cm、花弁は5枚で、脈はしばしば紫色になる。花期の終わりには閉鎖花をつける。蒴果は卵球形で長さ3～4mm、全体に密毛がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

稲武（日比野修 4548）、設楽西部（芹沢 70463）。

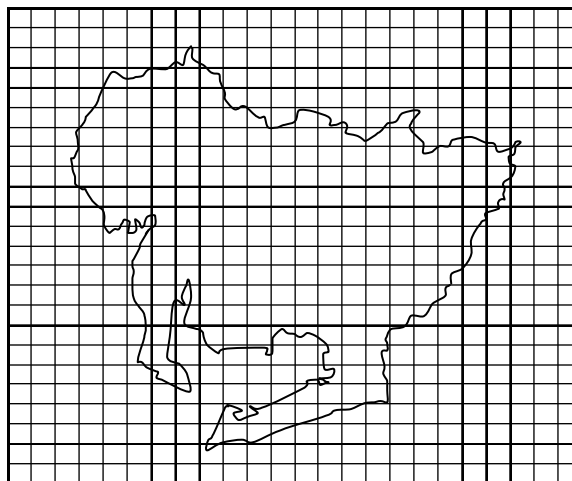
【国内の分布】

北海道、本州（中国地方を除く）、四国、九州。

【世界の分布】

北半球の温帯～亜寒帯に広く分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

通常は亜高山帯の林内に群生する。愛知県では、落葉広葉樹林内のコケの多い岩上やヒノキ林内などに生育している。

| | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林 | ○ | | | |
| 草・岩 | | | | |
| 湿地 | | | | |
| 水域 | | | | |

【現在の生育状況 / 減少の要因】

生育地は2区画の3カ所で、群落の規模も本種としては小さい。過去の自然林が広範囲に伐採された時代には著しく減少したと思われるが、現在は小康状態を保っている。しかし、森林の伐採が最大の脅威であるという状況は変わらない。

【保全上の留意点】

自生地とその周辺の森林を保全することが必要である。設楽西部の1カ所の自生地は県道沿いなので、道路の拡幅等の際には注意が必要である。

【特記事項】

ミヤマカタバミと異なり、根茎が長くはう、栄養的に繁殖して群落を作る。

【関連文献】

保草本Ⅱp.86、平草本Ⅱp.216、SOS旧版p.61。

ミヤマカタバミ *Oxalis griffithii* Edgew. et Hook.f.

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 1。山地の林内に生育する植物で、愛知県では生育地が少ない。

【形態】

半常緑性の多年生草本。根茎は太く、密に古い葉柄の基部に被われる。葉は根茎の先端に束生し、葉柄は長さ 8~20cm、葉身はほぼ同形の 3 小葉からなり、小葉は倒心形、幅 2.5~4cm、上縁の両側はややとがった円頭となる。葉柄、花茎、葉の裏面には密に軟毛がある。花期は 3~4 月、花茎は根生し、葉が展開する前に伸長し、先端に 1 個の花をつける。花は白色または淡紅紫色、直径 3~4cm、花弁は 5 枚である。蒴果は楕円形、長さ 10~17mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東栄（小林 41180）、鳳来北東部（加藤等次 1335）、旭（日比野修 1961）、春日井（山田果与乃 100）。ただし鳳来北東部は、移入の可能性はある。岐阜県美濃地方北部の山地には多いが、愛知県では稀にしか見ることができない植物である。

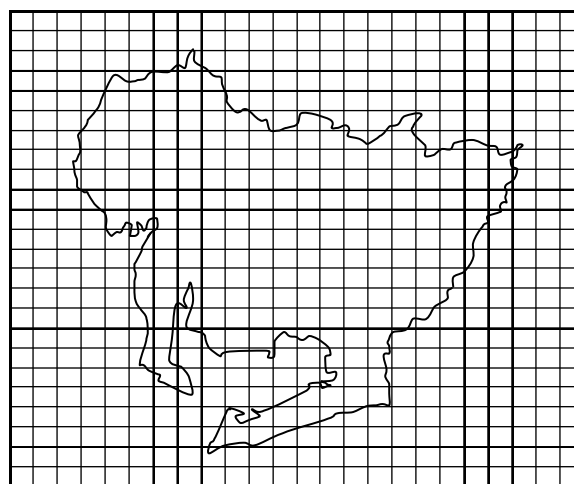
【国内の分布】

本州（東北地方南部~中国地方）、四国。

【世界の分布】

日本から中国大陸、ヒマラヤにかけて分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の沢沿いの林内に生育する。落葉広葉樹林だけでなく、スギの造林地などにも見られる。溪岸の岩上に生育することもある。

| | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林 | ○ | | | |
| 草・岩 | | | | |
| 湿地 | | | | |
| 水域 | | | | |

【現在の生育状況 / 減少の要因】

旭以外の 3 区画では、個体数はそれほど多いものではない。どの場所でも林内に常緑樹の低木が侵入して被陰され、衰退傾向にある。特に春日井では、ほとんど花が咲かない状態になっている。

【保全上の留意点】

自生地とその周辺の森林を保全することが必要である。造林地の場合は、間伐など適切な手入れも欠かすことができない。県全体としては準絶滅危惧と評価されたが、春日井は尾張地方唯一の生育地であり、特に配慮が必要である。園芸目的の採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【関連文献】

保草本Ⅱ p.86、平草本Ⅱ p.216。

カジカエデ *Acer diabolicum* Blume ex Koch

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 1。温帯性の樹木で、愛知県では個体数が少ない。

【形態】

落葉性の高木。高さ 20m に達する。葉は対生し、各枝に 1~4 対生じ、長さ 4~10cm の柄がある。葉身はほぼ 5 角形、掌状に浅~中裂し、長さ 6~12cm、幅 7~15cm、先端は鋭頭、基部は心形、裂片は 3 または 5、辺縁には大きな欠刻状の鋸歯があるが、細鋸歯はない。花期は 4~5 月、花序は総状で有花枝に頂生し、長さ 3~5cm、雌雄異株、雄花序は 5~11 花で下垂し、雌花序は 3~9 花でやや上向きにつき、花は淡緑色で紅色を帯びる。果実は 2 つの分果に分かれ、それぞれの分果は長さ 2.5~3cm、翼は鋭角に開く。

【分布の概要】

【県内の分布】

富山 (小林 46624)、豊根 (芹沢 81457)、津具 (芹沢 82155)、稲武 (塚本威彦 2313)。設楽西部 (西納庫駒ヶ原口~峠, 鳥居喜一 25135, 1974-9-23, HNSM) で採集された標本もある。

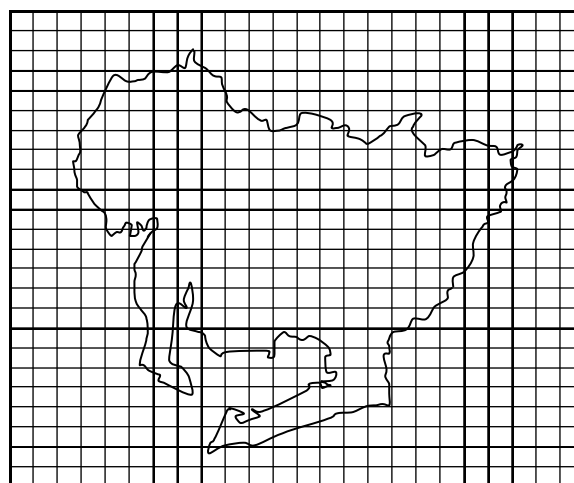
【国内の分布】

本州 (宮城県以南の主として太平洋側)、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の落葉広葉樹林内に生育する。

| | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林 | ○ | | | |
| 草・岩 | | | | |
| 湿地 | | | | |
| 水域 | | | | |

【現在の生育状況 / 減少の要因】

点在するが個体数は少なく、しかもほとんどが幼木で、開花結実するような個体はなかなか見られない。希少種であることを意識しない伐採等により失われるおそれがある。

【保全上の留意点】

愛知県では希少な樹木であることを認識する必要がある。特に成木については、個別的な保全が必要である。

【特記事項】

和名は、葉の形がカジノキに似ているからである。

【関連文献】

保木本 I p.289、平木本 II p.16。

イワウメヅル *Celastrus flagellaris* Rupr.

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 1。温帯性のつる性木本で、愛知県では個体数が少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

落葉性のつる性低木。枝は細く、今年枝は黄緑色、前年枝は紫褐色で、微細な乳頭状突起を密生し、托葉が刺となって宿存し、節から気根を出してはい上がることもある。葉は互生し、長さ 1~5cm の柄があり、葉身は円形~長卵形、長さ 2~5cm、幅 1.5~4cm、先端は急鋭頭~鋭尖頭、基部は浅心形~くさび形、葉質は薄く、辺縁には細鋸歯がある。花期は 5~6 月、雌雄異株で、葉腋に雄花は 1~3 個、雌花は 1 個ずつつき、花は黄緑色で径約 6mm である。果実は球形、径約 6mm、熟すと 3 裂し、中に橙赤色の仮種皮に包まれた種子がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊根 (小林 82578)、東栄 (小林 33452)、設楽東部 (小林 63846)、鳳来北東部 (芹沢 81473)、鳳来北西部 (小林 68120)、作手 (小林 55284)。

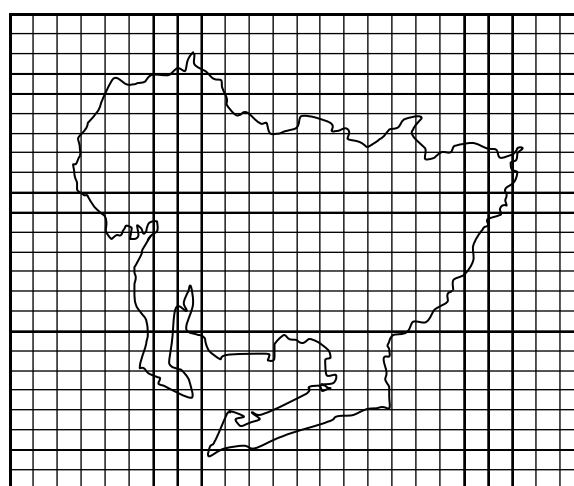
【国内の分布】

本州 (関東地方以西)、四国、九州に生育する。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸東北部、アムールに分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の岩礫地などに生育する。

| | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林 | ○ | | | |
| 草・岩 | ○ | | | |
| 湿地 | | | | |
| 水域 | | | | |

【現在の生育状況 / 減少の要因】

愛知県では東栄と鳳来北東部に群生地があるが、それ以外ほどの場所も個体数が少なく、また生育状態もよくない。東栄町の群生地は町道沿いの岩場であり、道路拡幅等の際に失われる可能性がある。鳳来北東部では草刈りが行われるため、開花するのはごく一部である。

【保全上の留意点】

工事等の際には、注意が必要である。

【関連文献】

保木本 I p.259、平木本 II p.39、SOS 旧版 p.64。

サクラスミレ *Viola hirtipes* S.Moore

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 1。温帯域の草地性植物で、愛知県では個体数が少ない。

【形態】

多年生草本。地上茎はなく、葉は束生し、葉柄はほぼ直立して長さ 5～15cm、下部に開出する白色の軟毛があり、葉身は三角状長卵形、花時に長さ 3～6cm、先端は鈍頭、基部は心形、辺縁には鈍鋸歯がある。花期は 5 月、花柄も直立して白軟毛があり、高さ 7～12cm、花は淡紅紫色で日本産スミレ類では最も大きく、花弁は 5 枚で長さ 15～20mm、凹頭または円頭、側弁には毛があり、距は長く 7～8mm ある。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊根（村松正雄 15119）、津具（芹沢 54660）、東栄（小林 36922）。富山、稲武からも記録されている（小林, 2006）。

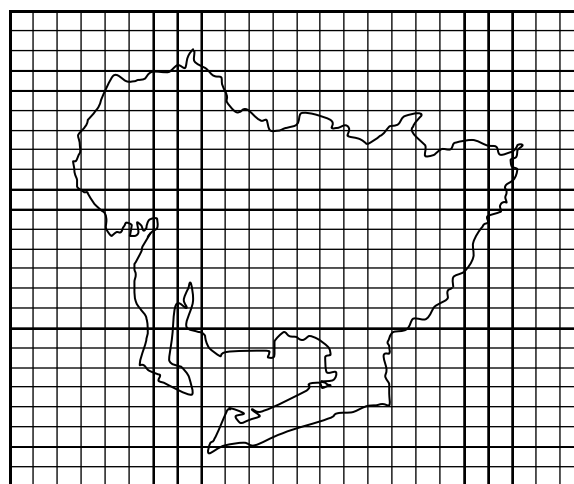
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸東北部、ウズリ一。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の草地や明るい林内に生育する。

| | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林 | ○ | | | |
| 草・岩 | ○ | | | |
| 湿地 | | | | |
| 水域 | | | | |

【現在の生育状況 / 減少の要因】

点在するが、どの場所でも個体数は少ない。採草が減少し、落葉広葉樹林内も低木やササ類が繁茂して、全体的に衰退傾向にある。

【保全上の留意点】

草地の保全が必要である。山地の尾根部にある草地は防火帯としても重要であり、草刈りや火入れを行って草地状態を維持する必要がある。

【特記事項】

和名は、淡紅色の大きい花をサクラに例えたものである。

【引用文献】

小林元男, 2006. 北設楽の植物 p.60, 171. 愛知県林業試験研究推進協議会, 新城.

【関連文献】

保草本Ⅱ p.59、平草本Ⅱ p.246.

オニビシ *Trapa natans* L. var. *rubeola* Makino

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 1。減少傾向の著しい水草で、生育地も少ない。

【形態】

1年生の浮葉性水草。茎は地中から長く伸びて水面に達し、節から羽状に分裂した根状の沈水葉を出す。浮水葉は茎の先端に放射状に叢生し、葉柄は長く、中央部は長楕円状にふくらみ、浮きぶくろとなり、葉身は三角状ひし形、幅 2.5～5cm、上部の辺縁は三角状の鋸歯があり、裏面の脈上には密に毛がある。花期は 7～10 月、花は葉腋から出た柄の先に 1 個ずつつき、白色、直径約 1cm、果実は石果で倒 3 角形、幅約 4cm、4 個の刺がある。葉柄や葉裏が紅色を帯びるものをメビシ form. *rubeola*、緑色のものを狭義のオニビシ form. *viridis* Sugim. として区別することがある。

【分布の概要】

【県内の分布】

作手（小林 64820）、豊川宝飯（小林 39195）、御津（小林 38731）、豊橋北部（小林 64887）、豊田北西部（芹沢 78039）、日進長久手（芹沢 78030）。

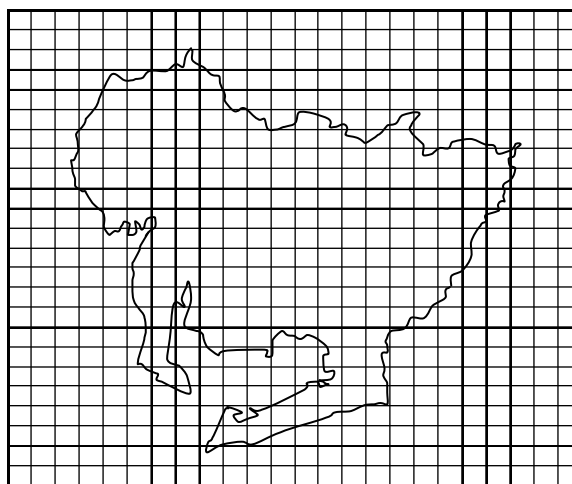
【国内の分布】

本州および四国。

【世界の分布】

日本および台湾。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

平野部や丘陵地の池沼に生育する。

| | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林 | | | | |
| 草・岩 | | | | |
| 湿地 | | | | |
| 水域 | | ○ | ○ | |

【現在の生育状況 / 減少の要因】

東三河には点在するが、それ以外では極めて少ない。

【保全上の留意点】

日進長久手の自生地は、尾張で現存が確認できる唯一の場所であり、特に保全が必要である。ため池の改修工事をする場合には、工事の時期に注意すると共に、種子や殖芽が含まれる池底の土を保全するなど、復水後に植生が復活できるような配慮が必要である。

【特記事項】

オニビシとコオニビシ var. *pumila* Nakano の関係については、よく分からないことが多い。角野 (1994) はオニビシの果実を幅 45～75mm と記述しているが、愛知県ではそれほど果実の大きいものは見られない。ここでは、葉柄や葉裏が紅色を帯びるメビシ型の植物と、紅色を帯びないが他の点ではそれと区別できないものだけをオニビシとして扱った。植物体も果実もやや小さいコオニビシ型の植物は、御津（小林 26237）、豊橋北部（小林 58431）、田原赤羽根（小林 46461）、幸田（金子律子 1317）、幡豆（中根幸司 1663）、名古屋北部（鳥居ちゑ子 2380）などで採集されている。いずれにしても日本産のヒシ属については、分類学的な再検討が必要である。

【関連文献】

保草本Ⅱ p.45、平草本Ⅱ p.262。
角野康郎, 1994. 日本水草図鑑 p.128. 文一総合出版, 東京。

夕チモ *Myriophyllum ussuriense* (Regel) Maxim.

【選定理由】

個体数階級 1、集団数階級 2、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有度階級 2。汚染されていないため池に生育する植物で、愛知県では生育地に対する開発圧力が高い。

【形態】

多年生で抽水性の小形の水草。陸生型となることもある。茎は下部で分枝し、上部は直立して枝はなく、水中にあるものは長さ 50cm くらいになることがあるが、水上に出て湿地にはえるものは高さ 5~20cm である。水中葉は 3~4 個輪生し、披針形~広披針形、羽状深裂し、長さ 1.5~2cm、裂片は糸状線形である。花期は 6~8 月、花序は茎の先端につき、穂状、水面から出て直立し、花は淡紅色で小さく、雌雄異株、花序の葉は針形となって、羽裂しない。水中のものは、冬も植物体の一部が枯れずに残る。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊川宝飯（小林 75845）、豊橋北部（小林 58566）、田原赤羽根（小林 45896）、三好（芹沢 78420）、瀬戸尾張旭（芹沢 68900）、日進長久手（芹沢 76302）、半田武豊（芹沢 56600）、常滑（相羽福松 4007）、犬山（塚本威彦 1287）、名古屋北部（鳥居ちよ子 1872）。県内の分布はシラタマホシクサに似ており、西三河南部の丘陵地には見られない。

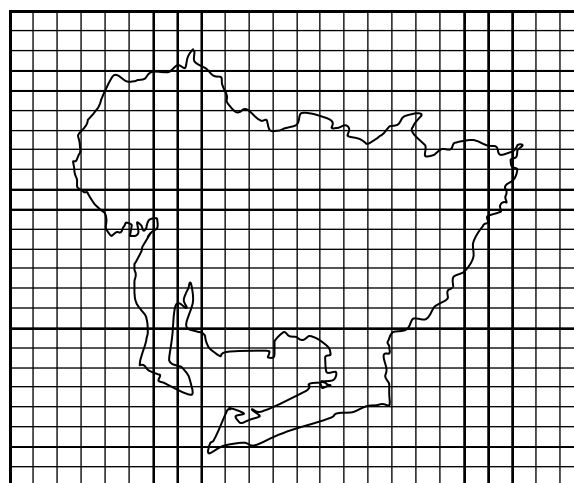
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、台湾、中国大陸東北部、アムール、ウスリー。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

丘陵地の浅いため池などに生育する。

| | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林 | | | | |
| 草・岩 | | | | |
| 湿地 | | | | |
| 水域 | | ○ | | |

【現在の生育状況 / 減少の要因】

尾張東部の丘陵地には比較的多いが、他では少ない。開発圧力の高い地域だけに、一方で水の汚染、他方で宅地や農耕地の造成に伴うため池の埋め立て等により、減少傾向にある。

【保全上の留意点】

丘陵地の小規模なため池を保全する必要がある。豊田市旧市域には生育している可能性があり、特に注意して探索する必要がある。

【関連文献】

保草本Ⅱ p.36、平草本Ⅱ p.270。
角野康郎, 1994. 日本水草図鑑 p.136. 文一総合出版, 東京。

アシタバ *Angelica keiskei* (Miq.) Koidz.

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 2、人為圧階級 2、固有度階級 2。フォッサマグナ地域の海岸に生育する植物で、愛知県では生育地も個体数も少ない。

【形態】

多年生草本。茎は太くて無毛、高さ 80~120cm に達し、上部でよく分枝し、切ると黄色の汁が出る。葉は互生し、下部のものには長い柄があり、葉身は 1~2 回 3 出複葉、小葉は広卵形で鋭尖頭、辺縁にはあらい鋸歯がある。茎の上部につく葉の葉柄は淡色で、袋状にふくらむ。花期は 8~10 月、花序は複散形で枝の先端につき、花序の枝は 7~20 本で長さ 2~5cm、花は小さく、淡黄色である。果実は長楕円形、分果の両翼はそれほど広くない。

【分布の概要】

【県内の分布】

幡豆(芹沢 83498)、知多南部(芹沢 82710)。蒲郡御津(小林 56911)、田原赤羽根(小南藤枝 16)、幸田(芹沢 82704)などにもあるが、逸出野生化したものかもしれない。

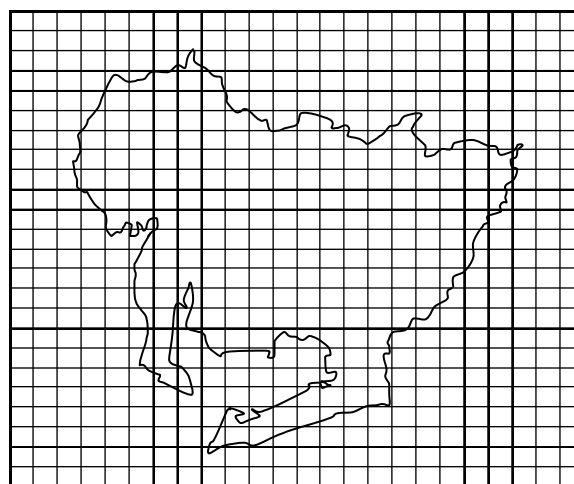
【国内の分布】

本州(関東地方南部、東海地方、紀伊半島)および小笠原に分布する。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

海岸の林縁や明るい林内などに生育する。愛知県での生育地はほとんどが人里近くである。

| | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林 | | | | ○ |
| 草・岩 | | | | ○ |
| 湿地 | | | | |
| 水域 | | | | |

【現在の生育状況 / 減少の要因】

知多南部には点在するが、個体数はそれほど多くない。食用目的で若葉が採取されており、多少の影響が出ている。幡豆ではごく少数の個体が生育しているだけである。

【保全上の留意点】

若葉を食用にするためしばしば栽培される植物で、知多南部でも時に植栽されている。しかし、近くにあった野生個体を採取して栽培したのか、逆に野生状の個体が本当は栽培起源の逸出であるかははっきりしない。逸出ならば保全の対象にはならないが、今となっては明確な判断ができないから、知多南部で野生状個体が生育している場所は一応保全しておく方がよいと思われる。保全に際しては地形の大幅な変更を避けることが重要で、草刈りなどの軽度の攪乱は気にしなくてもよい。今後栽培目的で株が多量に採取される事態になれば、それに対する対策も必要になる。

【特記事項】

和名は、葉を採取しても翌日にはまた新しい葉が出てくるからだと言われている。

【関連文献】

保草本Ⅱp.28、平草本Ⅱp.287、SOS 旧版 p.66。

ハナウド *Heracleum moellendorffii* Hance

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 1。湿った草地や林縁に生育する大形の草本で、愛知県では生育地が少ない。

【形態】

1 回開花性の多年生草本。茎は中空で太く、上部で分枝し、高さ 70~100cm、通常まばらに毛がある。葉は根生または茎上に互生し、長い柄があり、葉身は 3 出葉か単羽状複葉、小葉は 2~3 対で卵形~広卵形、先端は鋭頭、基部は心形、浅~中裂し、長さ 7~15cm、辺縁にはあらい鋸歯がある。花期は 5~6 月、花序は複散形で枝の先端につき、大形で直径 18cm に達し、花は白色、周辺部のものは花弁が大きくなる。果実は広楕円形で長さ 7~9mm、扁平で両端は浅くへこむ。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊川宝飯（小林 42717）、豊橋北部（芹沢 77858）、豊橋南部（小林 69072）。

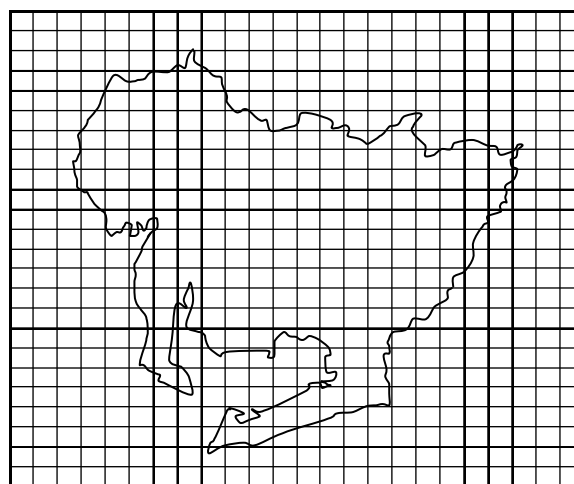
【国内の分布】

本州（関東地方以西）、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山野の林縁ややぶ、川岸の草地などに生育する。

| | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林 | | | | |
| 草・岩 | | ○ | ○ | |
| 湿地 | | | | |
| 水域 | | | | |

【現在の生育状況 / 減少の要因】

全国的には特に希少な植物ではないが、愛知県では分布域が限定されており、石巻山周辺と豊川下流部の河岸に見られるだけである。豊橋北部ではまだ比較的多いが、開発の影響を受けやすい場所に生育しているため、堤防の改修、道路の拡幅などにより消滅した場所もある。濃尾平野では、岐阜県側には点在するが、愛知県側ではまだ確認されていない。

【保全上の留意点】

堤防の改修や道路工事に際しては、注意が必要である。やや攪乱された場所に生育しているので、後で植生が回復できるような配慮があれば、そのうちに再度生育するようになると思われる。

【関連文献】

保草本Ⅱ p.32、平草本Ⅱ p.290。

イブキボウフウ *Libanotis coreana* (Wolff) Kitagawa

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有度階級 1。温帯域の草地性植物で、愛知県では生育できるような環境が減少している。

【形態】

多年生草本。茎は直立し、上部で分枝し、高さ 30～120cm になる。葉は互生し、茎の中部のものには長さ 2～6cm、基部のものには長さ 20cm に達する柄があり、葉身は 2～3 回羽状複葉で、長さ 5～30cm、小葉は細かく切れ込む。花期は 8～9 月、花序は複散形で枝の先端につき、直径 3～6cm、花は白色である。果実は楕円形、長さ約 3mm、分果の背に短毛がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

鳳来南部（芹沢 59259）、新城（芹沢 67035）、豊橋北部（芹沢 51920）、田原赤羽根（芹沢 53020）、渥美（小林 45171）、旭（塚本威彦 829）、足助（芹沢 70701）豊田東部（畑佐武司 6143）。豊川宝飯にもあるという（小林, 2004）。知多南部（篠島, 沢井輝男 s.n., 1934-7-17）で採集された標本もある。県内での分布は 2 地域に分かれており、中間の東三河北部、西三河南部ではまだ確認されていない。

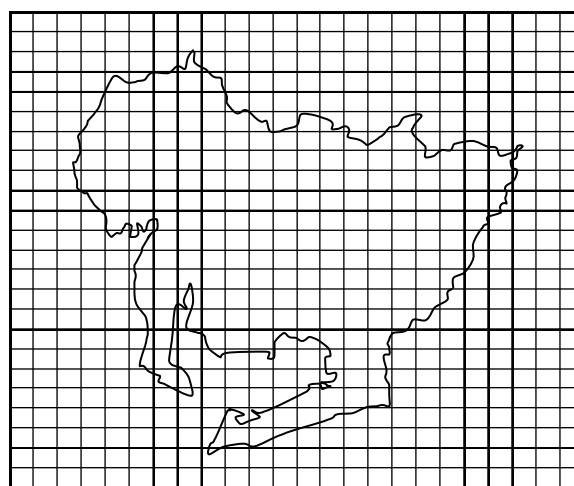
【国内の分布】

北海道および本州（近畿地方以東）。

【世界の分布】

日本および朝鮮半島南部。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

日当たりのよい、やせた草地に生育する。

| | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林 | | | | |
| 草・岩 | ○ | ○ | | |
| 湿地 | | | | |
| 水域 | | | | |

【現在の生育状況 / 減少の要因】

東三河南部では主として蛇紋岩地、はんれい岩地の草地に点在しており、場所によってはまだ比較的多いが、草地の減少に伴い衰退傾向にある。西三河北部では谷戸田周辺にある里草地（いわゆるボタ）に生育しているが、管理放棄に伴って遷移が進行している場所が多く、近年激減している。

【保全上の留意点】

愛知県の超塩基性岩地は、谷戸田周辺の里草地とともに、本種を含む多くの草地性植物の生育地になっている。しかしこれらの場所は、採草地としての利用の停止に伴い、全体的に森林化が進行している。草刈りや火入れを行い、草地状態を維持する必要がある。

【特記事項】

種としては海岸から高山まで生育する。海岸および高山のものは、それぞれ変種として区別されている。

【引用文献】

小林元男, 2004. 宝飯の植物 p.146. 東三河農林水産事務所, 豊橋。

【関連文献】

保草本Ⅱ p.20、平草本Ⅱ p.284。

シャクジョウソウ *Monotropa hypopitys* L.

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 1。自然度の高い場所に生育する腐生植物で、愛知県では点在するが、どの場所でも個体数が少ない。

【形態】

全体が淡黄褐色の、腐生の多年生草本。茎は高さ 10~20cm で、上部に軟毛がある。葉は互生し、鱗片状で広卵形、先端は鋭頭である。花期は 6~8 月、茎の先に総状花序をつくり、4~8 個の花を下向きにつける。花は筒状鐘形でがく片は 4~5 枚、花弁も 4~5 枚で長楕円形、長さ 1.2~1.5cm、先端は円頭、辺縁には不規則な歯牙がある。果実はさく果で、上向きにつく。

【分布の概要】

【県内の分布】

最近では、富山（小林 48053）、津具（村松正雄 18143）、鳳来南部（小林 62019）、作手（山崎玲子 2113）、旭（日比野修 1369）、足助（山崎玲子 1533）、下山（山崎玲子 1642）、豊田東部（山崎玲子 2853）、春日井（山田果与乃 376）で確認されている。豊根（砦山，加藤等次 1170, 1967-8-5）、設楽西部（段戸山，杉浦哲郎 88, 1949-8）などで採集された標本もある。

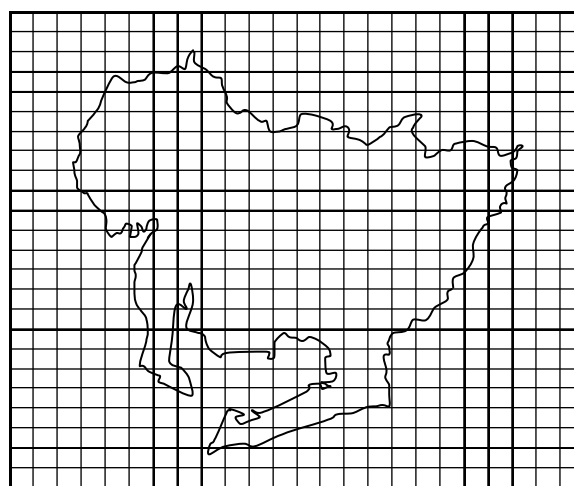
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

アジア、北アメリカ、ヨーロッパの温帯に広く分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の落葉広葉樹林内に生育する。

| | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林 | ○ | | | |
| 草・岩 | | | | |
| 湿地 | | | | |
| 水域 | | | | |

【現在の生育状況 / 減少の要因】

点在するが、どの場所でもたまたま発見できたというような状況で、確実に観察できる場所は少ない。自然林やよく発達した二次林の伐採により、減少傾向にあるものと思われる。

【保全上の留意点】

生育が確認されている場所の森林を保全することはもちろん必要であるが、本種のような出現頻度の低い植物については、自然環境の全体的な劣化を防止しなければ、いつの間にか消滅してしまうおそれがある。

【特記事項】

和名は、花序が僧侶や修験者の持つ錫杖に似ているからである。

【関連文献】

保草本 I p.235、平草本 III p.6。

サラサドウダン *Enkianthus campanulatus* (Miq.) Nichols.

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 1。愛知県では生育地が少なく、また園芸目的の採取により減少している。

【形態】

落葉性の低木。よく分枝し、高さ 2~5m になる。葉は枝先に集まって互生し、長さ 3~10mm の柄があり、葉身は倒卵形、長さ 2~5cm、幅 1~2cm、先端は鈍頭または鋭頭、下部はしだいに狭くなって葉柄に流れ、辺縁に先が長毛になる微小な鋸歯がある。花期は 5 月中旬~6 月下旬、枝先に長さ 2~3cm の短い総状花序を伸ばし、10 個内外の花を下垂する。花冠は鐘形で長さ 8~10mm、浅く 5 裂し、裂片は円形、下部は黄白色で紅色の縦条があり、上部は淡紅色である。果実は蒴果で、上向きにつき、長さ 5~7mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

作手 (小林 56712)、下山 (小林 56720)、額田 (小林 52755)。

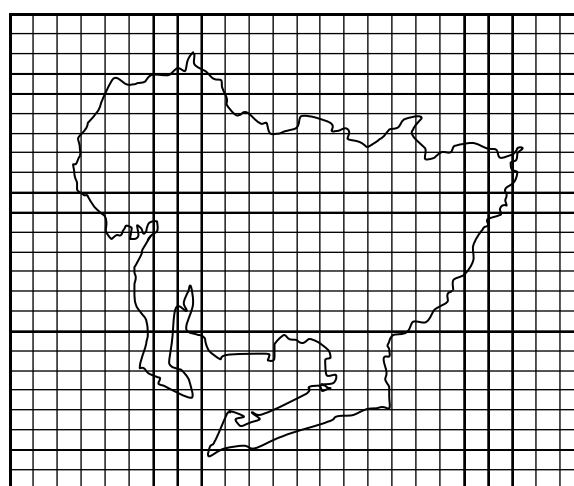
【国内の分布】

北海道 (西南部)、本州 (兵庫県以東)、四国 (徳島県) に生育する。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

通常は深山の岩地に生育する。愛知県の生育地は、やせ山や湿地状の場所である。

| | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林 | | | | |
| 草・岩 | ○ | | | |
| 湿地 | ○ | | | |
| 水域 | | | | |

【現在の生育状況 / 減少の要因】

生育地は限られているが、その場所では個体数は比較的多い。愛知県では比較的平坦な地形の場所に生育しているため、牧場等の開発により減少傾向にある。造林地となっている場所では、被陰による衰退も目につく。また道路沿いなどでは、園芸目的でかなり掘り取られている。

【保全上の留意点】

生物多様性の保全の上では、植生の発達が悪いやせ山が重要な場所であることをよく認識する必要がある。園芸目的の採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

花序が長いカイナンサラサドウダン *E. sikokianus* (Palibin) Ohwi は、愛知県では比較的広く分布している。

【関連文献】

保木本 I p.131、平木本 II p.145。

クリンソウ *Primula japonica* A.Gray

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有度階級 1。美しい花をつける鑑賞価値の高い植物で、愛知県では園芸目的の採取により、減少傾向が著しい。

【形態】

多年生草本。葉は束生し、葉身は倒卵状長楕円形、長さ 15~40cm、幅 5~13cm、先端は円く、基部は次第に狭まって柄状になり、無毛、辺縁には不ぞろいな多数の歯牙がある。花期は 5~6 月、花茎は高さ 40~80cm になり、上部に多数の花を 2~5 段に輪生してつける。花冠は紅紫色で中央部は濃色になり、直径 2~2.5cm、筒部は長さ 1.5~1.7cm である。果実はさく果で球形、直径約 7mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

津具（小林 45726）、設楽西部（小林 37795）、鳳来南部（小林 62071）、作手（芹沢 64795）、稲武（小林 38010）、旭（日比野修 1093）、足助（鈴木勝己 22）。豊根（茶臼山、芹沢 28105, 1978-5-31）にも生育していたが、ここでは現存が確認できない。

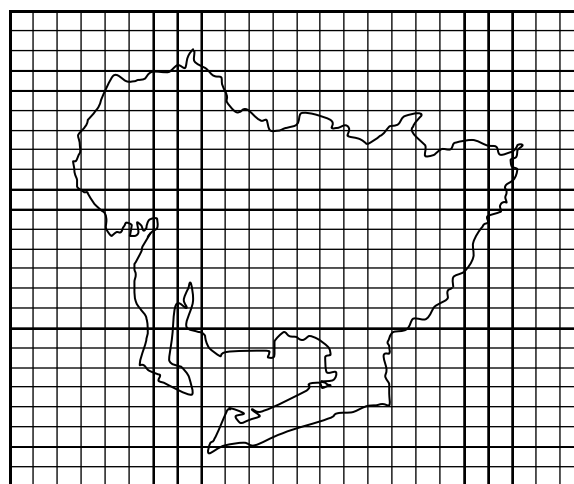
【国内の分布】

北海道、本州、四国。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の沢沿いなどの湿地に生育する。

| | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林 | | | | |
| 草・岩 | | | | |
| 湿地 | ○ | | | |
| 水域 | | | | |

【現在の生育状況 / 減少の要因】

長野県まで行けば比較的多いが、愛知県ではもともとそれほど多い植物ではない。人目に付きにくい場所ではまだ小群落が点在するが、道路の近くなど目に付きやすい場所ではほとんど持ち去られ、山麓の民家の庭などに栽培されていることが多い。豊根村茶臼山では以前はかなり生育していたが、全て採取されたらしく、最近では確認できなくなった。

その一方で豊田市などでは、もともとなかった場所に植栽や播種が行われ、本来の自然状態に対する大きな脅威になっている。本来ないものは「ない」のが自然の状態であり、移入はどのような場合でもその自然状態を破壊する行為であることを認識する必要がある。

【保全上の留意点】

園芸目的の採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

和名は花が段になって輪生するからであるが、9 段には及ばない。

【関連文献】

保草本 I p.231、平草本Ⅲp.23、SOS 旧版 p.69、SOS 新版 p.63,65。

ハマサジ *Limonium tetragonum* (Thunb.) A.A.Bullock

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 2。全国的に減少傾向の著しい、塩湿地性の植物である。

【形態】

越年生草本。葉は束生し、葉身は長楕円状へら形、長さ 8~17cm、幅 1.5~3cm、先端は鈍頭またはややとがり、下部は次第に狭まって柄状となり、質は厚く、辺縁は全縁である。花期は 9~11 月、株の中央から高さ 30~50cm の花茎を伸ばし、よく分枝して、多数の小穂からなる円錐状の花序をつくる。小穂基部の苞は長さ 2~3mm で、鋭頭である。小穂は 1 個の正常花と 1 個の不熟花からなり、がくは筒型で長さ 5~6mm、浅く 5 裂し、白色、花冠はがくよりやや長く深く 5 裂し、上部は黄色である。果実は紡錘形で、長さ約 2.5mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

蒲郡(小林 58669)、豊橋南部(小林 48839)、田原赤羽根(小林 53150)、渥美(芹沢 79241)、幡豆(芹沢 82270)。既知の生育地は三河湾側だけである。知多半島では、三河湾側でも伊勢湾側でもまだ確認されていない。

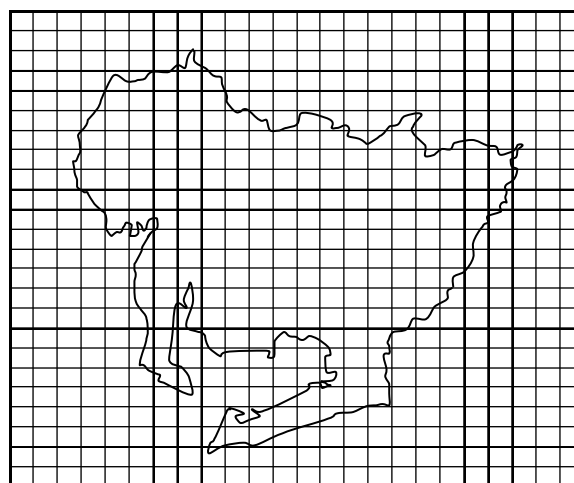
【国内の分布】

本州(三陸海岸以南の太平洋側)、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸東北部。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

海浜の塩湿地の、満潮時には海水に浸かるような場所に生育する。

| | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林 | | | | |
| 草・岩 | | | | |
| 湿地 | | | | ○ |
| 水域 | | | | |

【現在の生育状況 / 減少の要因】

三河湾には点在しており、比較的まとまった群落もあるが、それでも埋め立て等による塩湿地の破壊に伴い、過去に比べれば相当減少している。伊勢湾では、三重県側にはあるが、愛知県側は生育できそうな場所が残っていない。

【保全上の留意点】

内湾の塩湿地は、開発圧力が高く、全国的にも愛知県でも急激に減少している。現在残存している場所は、特に注意して保全する必要がある。生育地の直接的な改変を避けることはもちろんであるが、通常は河口にあるので、流入する河川の水質維持にも注意を払う必要がある。

【特記事項】

和名は、葉の形状による。

【関連文献】

保草本 I p.223、平草本 III p.26、SOS 旧版 p.69、環境庁 p.508、SOS 新版 p.158,160。